



職業観の形成

目次

要約とまとめ	2
プロローグ 将来に夢をもたない成長のスタイル	4
第Ⅰ章 職業生活への見通し	10
1. サンプルの属性	10
2. サラリーマンの仕事	13
3. つきたい仕事	17
4. これから的人生	20
第Ⅱ章 つける仕事とつきたい仕事	24
1. がんばればつけるか	24
2. つけそうな仕事	27
3. ついてみたい仕事	31
4. 「つける」と「ついてみたい」との距離	36
第Ⅲ章 仕事についての見通し	39
1. 仕事に役立つ属性	39
2. 仕事についたらできること	43
3. 自分のタイプ	48
第Ⅳ章 家庭生活との関係	54
1. 母親の生活	54
2. 父親の仕事	56
3. 親から言われること	61
資料1 調査票見本	64
資料2 学年・性別集計表	76

*おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。

要約とまとめ

静岡大学教授

深谷昌志



① サラリーマンのイメージ

上司に気をつかい、通勤が大変で、忙しくて疲れる仕事だろうという（p.14 図2）。

② つきたい仕事のイメージ×属性

女子よりは男子、中1より中3、学業成績が下位より上位になるにつれて、仕事についてのイメージが増す（p.18 図7～9）。

③ 「必ずつける」と思える仕事

男子はサラリーマン（34.1%）、女子はデパートの店員（32.9%）が、いちばんつけると思える職業である（p.29 表6）。

④ ついてみたい仕事

ついてみたい仕事を男女別でみると、男子はプロスポーツの選手、通訳、一流企業の社長。女子はプロスポーツの選手、美容師、デパートの店員となる（p.32 表8）。

⑤ 自己像と学業成績

全体として、自己像は学年が上がるにつれて明るくなるが（p.49 表18）、そうした中で、学業成績では上位層が自分に自信を抱いているのがわかる（p.50 表19）。そして、学校での生活も、学業成績の上位層のほうが自信をもっている（p.53 表21）。

⑥ 父親の仕事

父親は仕事にわりと満足していると思っている（p.57 図28）。特に、自営の父親をもつと、そう思える割合が増す（p.57 図29）。

[まとめ]

多くの中学生は、サラリーマンは気をつかう仕事で、疲れていると思っている。それだけにサラリーマン以外の仕事につきたいと思っている。しかし、通訳やプロスポーツの選手など、つきたいと思う仕事にはつけそうもないと感じている。そして、学業成績の上位の生徒のほうが、仕事面でがんばっていこうと思っている者が多い。

中学生たちは、かなり真剣に自分の職業を考えようとしている。しかし、「なりたい仕事はつけそうもないし、なれそうな仕事はつきたくない」というギャップに悩んでいる。それだけに、「なりたいし、なれると思う」仕事の目標を生徒に与えてやることが大事であろう。

[調査概要]

対象／東京、横浜の中學1～3年生、1,170人

時期／1993年2月～3月

方法／学校通しによる質問紙調査

サンプル数

(人)

△	男子	女子	計
中1	114	100	214
中2	133	130	263
中3	349	344	693
計	596	574	1,170

プロローグ

将来に夢をもたない 成長のスタイル

将来への見通し

本モノグラフは中学生の職業観を考察しようとしたものだが、中学生たちにつきたい仕事を尋ねても「(特) ベツに(ない)」という答えが戻ってくることが多い。つまり、将来に夢をもっていない生徒が多いように見えるのである。

しかし中学生に限らず、子どもたちを見ていても、なんとなく、やる気に乏しいような印象を受ける。そうした気持ちはわれわれのようなやる気をもちすぎた世代だから感じるので、今の子どもの反応のほうが自然なので、とも思う。

しかし、過去の子どもと対比させて、現代の子どものやる気の程度を確かめるのは、比較する尺度をもっていないので、あくまで印象にすぎなくなる。そこで、小学生を対象としたデータだが、国際比較の形で、他の社会の子どもたちと対比させて日本の子のやる気をとらえてみたいと思う。

図1に目を通してほしい。これは、本モノグラフの小学生版「小学生ナウ」vol. 12-4

で紹介したものだが、数値は1992年にロスとストックホルム、ハルビンの子どもを対象として実施した国際比較調査の一部である。

実をいうと、これまでソウルや台北、オークランド(ニュージーランド)、バンコクなど、日本と接点の多い都市での調査を行ってきたので、今回は福祉社会を象徴するストックホルム、一人っ子政策を実施している社会主義の中国ハルビンに対象を拡大してみた。図中の数値は、それぞれの都市の子どもたちに「大きくなったらどういう生活ができるか」を予想させた結果を示している。

全体に見通しが明るいのがロス。ハルビンの子は、お金持ちになるのはむずかしいとしても、その他の面で明るい未来像を抱いている。ストックホルムの子は、「有名になる」や「仕事で成功する」などの社会的な達成は困難だと思うが、「しあわせな家庭を作る」については72%の子が「きっとなれる」と信じている。

調査にあたって、それぞれの地域を訪れた筆者の感じでは、図1の結果にそれぞれの社会らしさがあらわれているように思う。ハルビンでは合弁会社が多く作られ、社会主義社

会からの脱皮が試みられているが、それでもまだ貧しい。その辺が、お金持ちは無理という子どもたちの反応になったのであろう。また、ストックホルムは福祉政策が行き届き、貧富の差が少なく、それだけに社会的な達成より生活の質に人々の関心が集まっている。ストックホルムの子が、家庭づくりに意欲をみせているのは、いかにも福祉社会の子どもらしい反応である。

そうした中で、東京の子どもたちの見通しは、とび抜けて低い。「仕事での成功」の見通しは、ロスの子の8割に対して2割弱にとどまっているし、「よい親になれる」と思う割合は、ストックホルムやハルビンの6割に比べ、27%と3割を割っている。

自己評価の開き

こうみると、社会的な背景はともあれ、

日本の子どもたちが未来について閉ざされたイメージを抱いているのは確かなように思う。

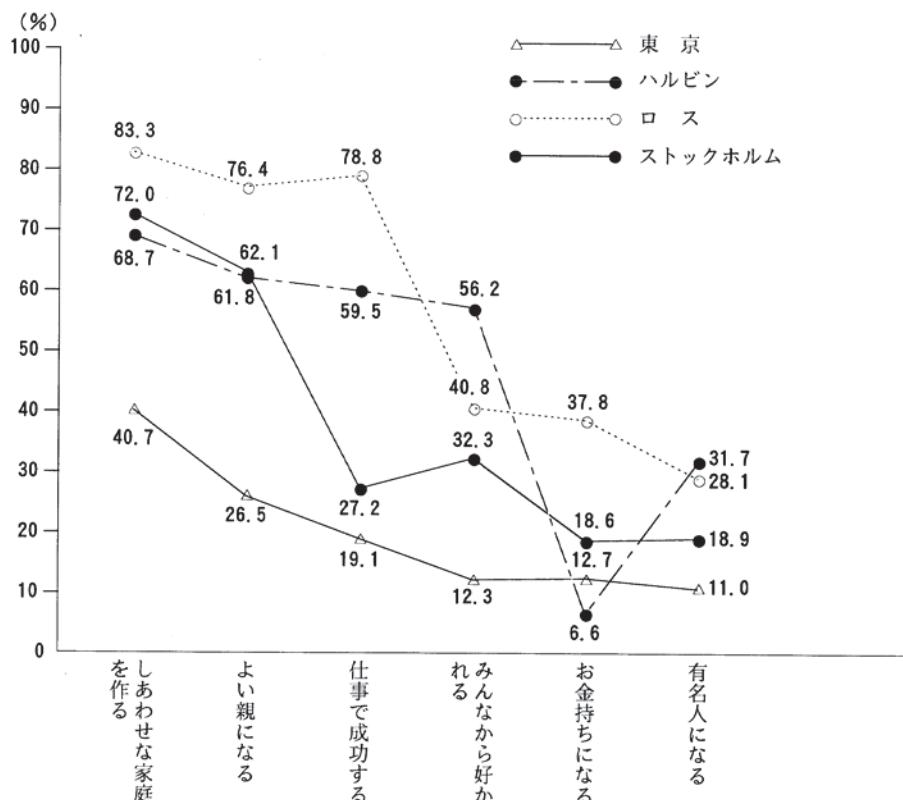
将来に希望をもてないと感じているのであるから、当然のことながら日本の子どもたちの意欲は乏しくなってくるが、そうした状況は図2にもあらわされている。

図2は、子どもたちに自己評価を求めた。ハルビンの子は正直さや親切さに自信をもつ。ロスの子は全体として明るい。ストックホルムの子はハルビンの子と同じように、正直さや親切さに自信があると答えている。

それに対して東京の子どもの自己評価は、全体として自信に欠ける。自分に人気があるとも思えないし、正直な子ともいえない。親切さにも自信がない。

このように東京の子どもたちは、現在の自分に自信を抱けないでいる。つきつめでいうと、日本の子どもたちは「何もできない駄目な自分」という自己像をもっているのに対し、

(図1) 将来の見通し（きっとなる割合）



ロスの子どもは「よく働き、スポーツがうまく、勇気がある」と自分を肯定的にとらえている。

自己像についてのこうした開きはどうして生ずるのか。国際比較調査なので、開きの背景はさまざまな要因が考えられる。しかし、とりあえず表1に目を通してほしい。これは、すでに図1でふれた「将来の見通し」を学業成績別にクロスさせた結果を示している。ここでは、学業成績の「ふつう」な子（C）を分子に、「よくできる子」（A）を分母にとって、成績が下がるにつれて見通しがどう変化するかを示すC/Aの欄に注目してみたい。

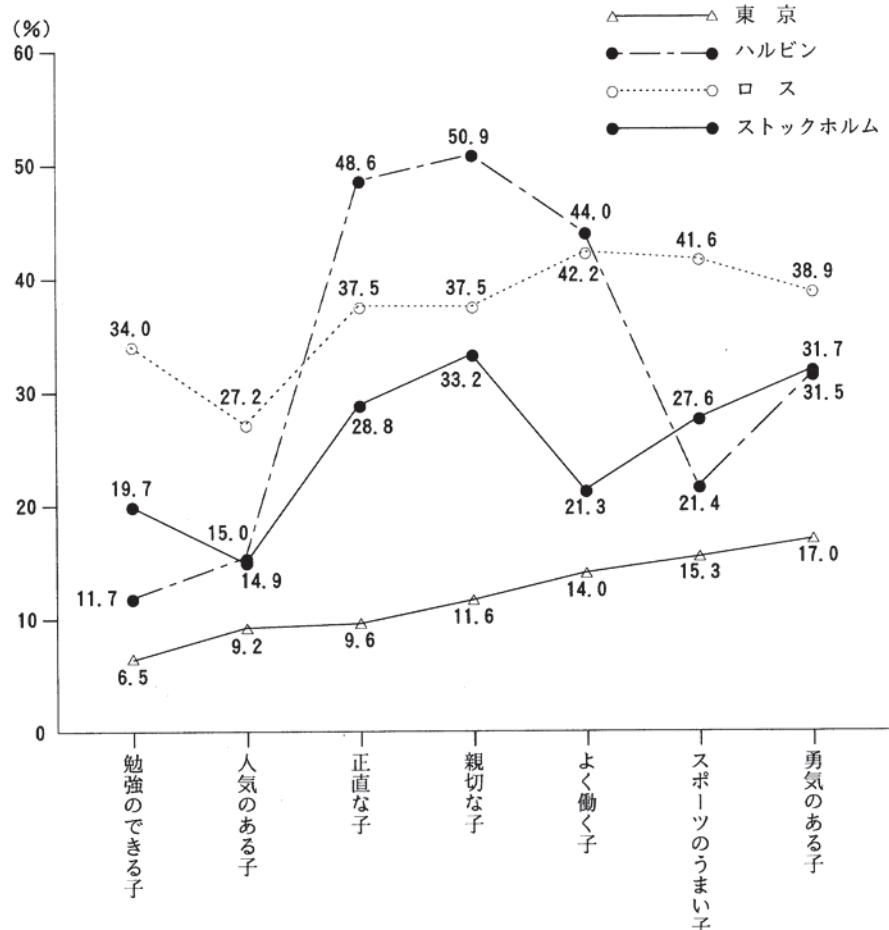
4つの都市の中で、C/Aがもっとも大き

な都市に○、小さな都市に□を付してみた。そうすると、○つまり成績が下位になってしまっても将来の見通しが上位層とあまり変わらないのが、ハルビンやロス、それに対して下位になると見通しが暗くなるのが東京の子どもたちである。そこで「みんなから好かれる」から「しあわせな家庭を作る」の6つの項目についてC/Aの平均値を算出してみると、以下の通りとなる。

ハルビン	87.7%
ロス	79.8%
ストックホルム	49.0%
東京	35.6%

つまり、ハルビンやロスの子どもたちは、

(図2) 自己評価



成績が下位になっても、上位の子と同じように未来を信じているのに、東京の子どもは、成績が下位になると未来が閉ざされたと思う割合が多い。換言するなら、日本の子どもたちは、人生の中で成績のよさのもつ重みを大きく評価しているのに対し、ロスやハルビンの子は成績の良し悪しはそれほど大きな意味をもたないと考えている。

もうひとつ、図3の結果を紹介しよう。これは、これまで行ったバンコクやシアトルなどの都市を含めて、子どもたちの中で成績がよいと思っている子がどれくらいの割合を占めているかを示した。この中で興味深いのは、ロスやシアトルの子のほぼ7割が「かなり」

を含めて成績がよいと思っているのに対し、東京の子でそう思っているのは2割を下回ることである。

個性づくりの中での選抜

すでにふれたように、調査実施にあたり、どの地域でも調査に立ち会っている。そしてアメリカの場合、比較的安定した地域で調査したといっても、学力の低下は深刻だ。したがって、客観的にはむしろ学力の低い子が少なくないのに、アメリカの子は「成績がよい」と答えている。

それに対して日本の子は、勉強はよくでき

(表1) 将来の見通し × 成績

(%)

		よくできる (A)	かなり できる(B)	ふつう (C)	C/A
みんなから 好かれる	東京	44.1	15.3	9.8	22.2
	ハルビン	50.0	65.7	52.5	105.0
	ロス	56.7	41.2	24.6	43.4
	ストックホルム	48.6	29.1	23.2	47.7
よい親にな る	東京	56.9	35.6	23.7	41.7
	ハルビン	68.8	56.7	66.1	96.1
	ロス	81.9	74.6	75.6	92.3
	ストックホルム	81.0	61.5	48.2	59.5
有名人にな る	東京	30.4	12.5	9.1	29.9
	ハルビン	51.2	41.5	28.4	55.5
	ロス	34.7	23.0	24.0	69.2
	ストックホルム	32.8	15.8	10.8	32.9
お金持ちに なる	東京	33.7	16.7	10.6	31.5
	ハルビン	9.1	8.2	7.2	79.1
	ロス	40.0	34.5	39.2	98.0
	ストックホルム	29.2	17.1	11.4	39.0
仕事で成功 する	東京	51.0	27.3	16.3	32.0
	ハルビン	61.2	73.6	56.3	92.0
	ロス	87.4	79.0	68.0	77.8
	ストックホルム	44.1	25.9	15.9	36.1
しあわせな 家庭を作る	東京	68.6	48.6	38.5	56.1
	ハルビン	87.3	84.1	85.9	98.4
	ロス	84.6	84.1	83.2	98.3
	ストックホルム	77.4	75.5	60.8	78.6

「きっとなる」割合

るのに「自分は駄目だ」という。他の子と比べ、自分よりできる子がいるので、その子との対比で自分の成績はそれほどよくないと答えるのである。

念のために、成績についての自己評価の分布を示すと、表2のように、東京の子の反応は正規分布を描く。他の子との比較の中に自分を位置づけるのに対し、ロスやストックホルムの子は、他の子と関係なしに自分なりの判断で評価をくだす。そのため成績がよいという子が7割を超す。

こうした国際比較調査と並行して、ロスで現地の学校に子どもを通わせている在留邦人の親たちに、教育問題のむずかしさを中心として聞き取り調査を行ってみた。

親たちの態度は、はっきりとアメリカ適応指向型と日本帰国準備型とに分かれる。前者は、可能ならばアメリカの大学への進学を考えているが、話を聞いてみると、アメリカへの適応は、ぼんやりと考えていた以上にむず

かしい。

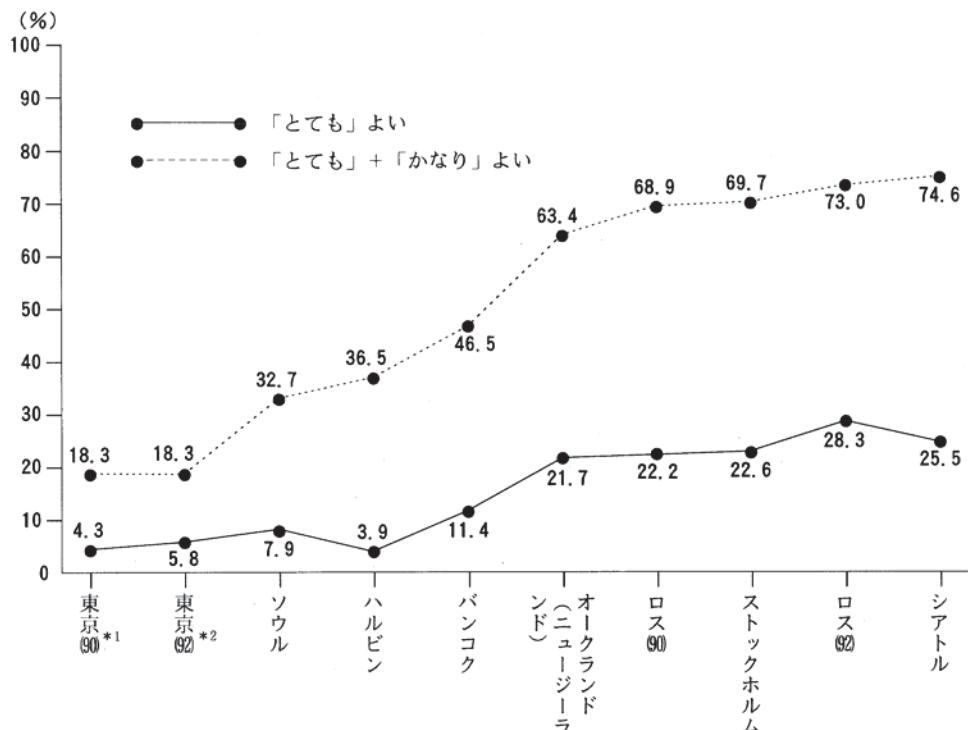
日本から行った子どもなので、当然、学校でESL (English as Second Language) 児に位置づけられる。しかし、ESLカテゴリーに入っていると、めぼしい大学への進学はむずかしいので、家庭教師をつけて語学力を高め、年に1回実施されるカリフォルニア州の学力テストでよいスコアを取ろうとする。

ESLの状態から脱しても、それだけでは駄目で、さらに学力をつけ、勉強の得意な子が在籍している「オナーズ」(名誉なクラス Honours)、さらに大学レベルの授業を行う特別クラスAP (Advanced Placement) に入らなければならない。

もちろん、すべての教科でオナーズになるのが好ましいが、それはむずかしいので、自分なりの個性をつくり、社会科や数学など、その子らしさをはっきりさせる。

こうした結果が、大学進学適性テスト (SAT) のスコアと同じレベルで評価されるの

(図3) 成績のよい子の割合



*1 (90)=1990年調査、*2 (92)=1992年調査（以下同）

で、個性づくりが大事になる。それに加え、部活動のキャリアも不可欠で、どの子も高校時代に何に熱中していたかをはっきりさせておくのが望ましい。しかも、アメリカの高校では、スポーツは季節制なので、野球だけをしているわけにいかない。野球が終わったらアメ・フト、あるいは絵画というように季節に応じて活動を変えていく。

さらに、アクティビティ (activity) とよばれるボランティア活動の記録も進学に不可欠で、生徒たちは老人ホームで働いたり、病院でボランティアをし、そこからの推薦状を書いてもらう。

つまり、学力と部活動、そしてボランティアの3つが加味され、その生徒なりのプロフィールが作られる。それが進学にあたっての評価になるので、こうなると、何よりも必要なのは個性づくりになる。

それに対し、在留邦人の中で、日本の大学への進学を考えている子は、土曜日に補習学校であるアサヒ学園へ行くのに加え、育英や一つ橋、浜学園などの日本の学習塾が現地に進出しているので、そこへ通って学力をつける。ロスでも日本と同じ時期に同じ模試を受けられるという。そうなると、ロスにいる子も東京と同じ試験を受け、そして、1点でもよい点をとろうとする。文字通りの偏差値社

会で、これでは全国レベルの共通テストにチャレンジするようなもので、個性のかけらも生まれてこない。

1つの尺度で1点でも多くと、知識を記憶する競争を展開しているのが日本だとするなら、一人一人が個性づくりで勝負するのがアメリカの入試となる。そして、このところ日本でも、アメリカ式の複数の尺度で入試を考える傾向が強まっている。しかし、アメリカ式だと尺度が増えてくるので、入試としてどちらがむずかしいかは微妙だが、いずれにせよ、日本のスタイルだと、成績がふるわないと望みの大学へ入れず、社会的な達成を断念する子が増え、無気力化の傾向が強まろう。生涯学習の時代を迎え、誰でもいつでも大学へ入れる時代が近づいている。したがって、18歳の時に人生のすべてが決まるわけがない。むしろ、アメリカ流の個性づくりのほうが、これから社会では必要のように思う。

先まわりをした指摘をしそうたかもしれない。現代の日本へ視野を戻すなら、生徒たちは学歴社会の重みを感じ、将来に閉ざされたイメージを抱いている。「何かになりたい」という気持ちをもてない生徒が多いのである。以下、本号では、こうした社会的な達成を断念し、職業生活に夢をもとうとしない生徒たちの姿を紹介することにしたい。

(表2) 成績の自己評価

(%)

	よ い		ふつう	よくない	
	と て も	か な り		や や	と て も
東京	5.8	12.5	55.8	18.6	7.3
ハルビン	3.9	32.6	48.4	13.5	1.6
ロス	28.3	44.7	23.6	2.8	0.6
ストックホルム	22.6	47.1	27.9	1.6	0.8

第Ⅰ章 職業生活への見通し



1. サンプルの属性

本モノグラフでは、中学生の職業観の形成を考察の対象にしようとしている。データの検討に先だって、まず、サンプルの概要を紹介しておこう。

表1によれば、生徒たちの5割弱が運動部に積極的に参加しており、「入部していない」者は15.8%にすぎない。

また、学業成績は図1の通りで、「中位」の生徒が33.9%、「中の上」以上が28.9%、「中の下」以下が37.2%と、ほぼ3分される傾向を示している。

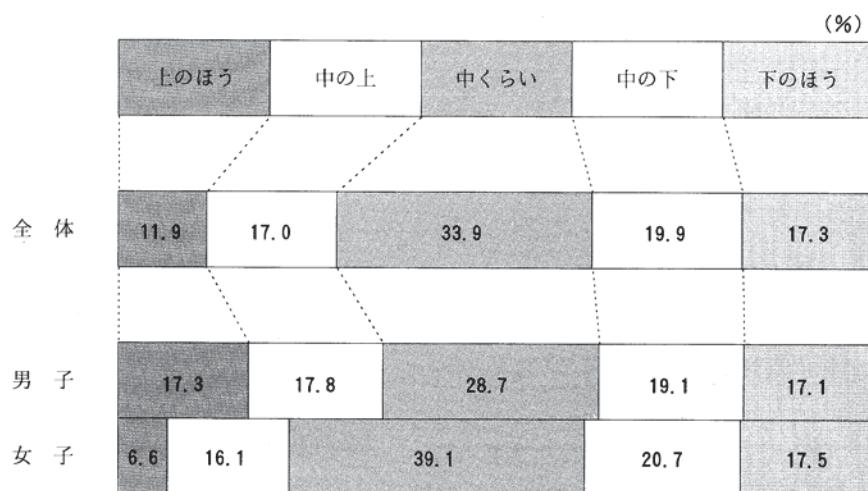
なお、生徒たちの父母の仕事については、多様な現代社会を反映して「その他」の占める割合が多いが、そうした中で表2～3のように、父親の4割がホワイトカラー、そして母親については、22.1%が専業主婦、34.4%がパートタイマーで、両者を合わせると、ほぼ6割が主婦に近い家庭である。

したがって、こうしたデータから判断すると、今回のサンプルは中学生のほぼ標準の形に近いように考える。

(表1) 部活動

(%)	
運動部・積極的に活動	45.3
運動部・サボりぎみ	18.7
文化部・積極的に活動	10.8
文化部・サボりぎみ	9.4
入っていない	15.8

(図1) 学業成績



(表2) 父親の仕事

(%)	
会社や学校、役所や銀行に勤務	40.5
店や工場をやっている	12.4
工場に勤務	11.2
お店に勤務	4.7
農業・漁業	0.9
その他	30.3

(表3) 母親の仕事

(%)	
パートタイム	34.4
専業主婦	22.1
フルタイム	16.2
お父さんと店・工場・会社	8.5
内職	4.2
その他	14.6

a. 専門的・技術的な仕事	3.9
b. 事務的な仕事	8.5
c. 販売・サービス	3.2
なし	84.4

2. サラリーマンの仕事

職業観というと、さまざまな職業選択がイメージにうかんでくる。しかし、大半の生徒たちにとって、親しみやすい職種は会社員であろう。実際に、すでにふれたように、父親の4割が会社勤めをしている。

そこで、サラリーマンをどういう仕事だとと思うか尋ねてみた。図2のように、生徒たちは、サラリーマンの仕事を以下のようなものだと考えている。

<サラリーマンとは>

1. 上司に気をつかう (88.7%)
2. 通勤が大変 (87.2%)
3. 忙しくて疲れる (86.3%)
4. 残業が多い (84.5%)

(「とても」「まあ」あてはまる割合)

生徒たちは、サラリーマンは通勤に疲れ、残業が多く、上司に気をつかい、疲れる仕事だとみなしている。

こうしたサラリーマン・イメージは、テレビなどで見かけることが多い姿と類似しており、ステレオタイプすぎる気持ちがする。しかし考え方によれば、生徒たちは父親などを通して、働く人たちの実態をよく知っているといえなくもない。

そして図3によれば、女子よりも男子のほうが、サラリーマンは大変だと思っている割合が多い。さらに、学年別に着目すると、中1より中3のほうが、サラリーマンを疲れる感じの割合が多い(図4)。

そこで念のために、父親の仕事によって、サラリーマンに対するイメージが異なるかどうかを調べてみた。

	父親がサラ リーマン	父親がサラ リーマン以外
1. 上司に気をつかう	51.3%	< 69.4%
2. 通勤が大変	45.2%	< 62.5%
3. 忙しくて疲れる	40.5%	< 44.1%
4. 残業が多い	25.8%	< 31.3%
5. 会社のために自 己犠牲	23.4%	28.0%

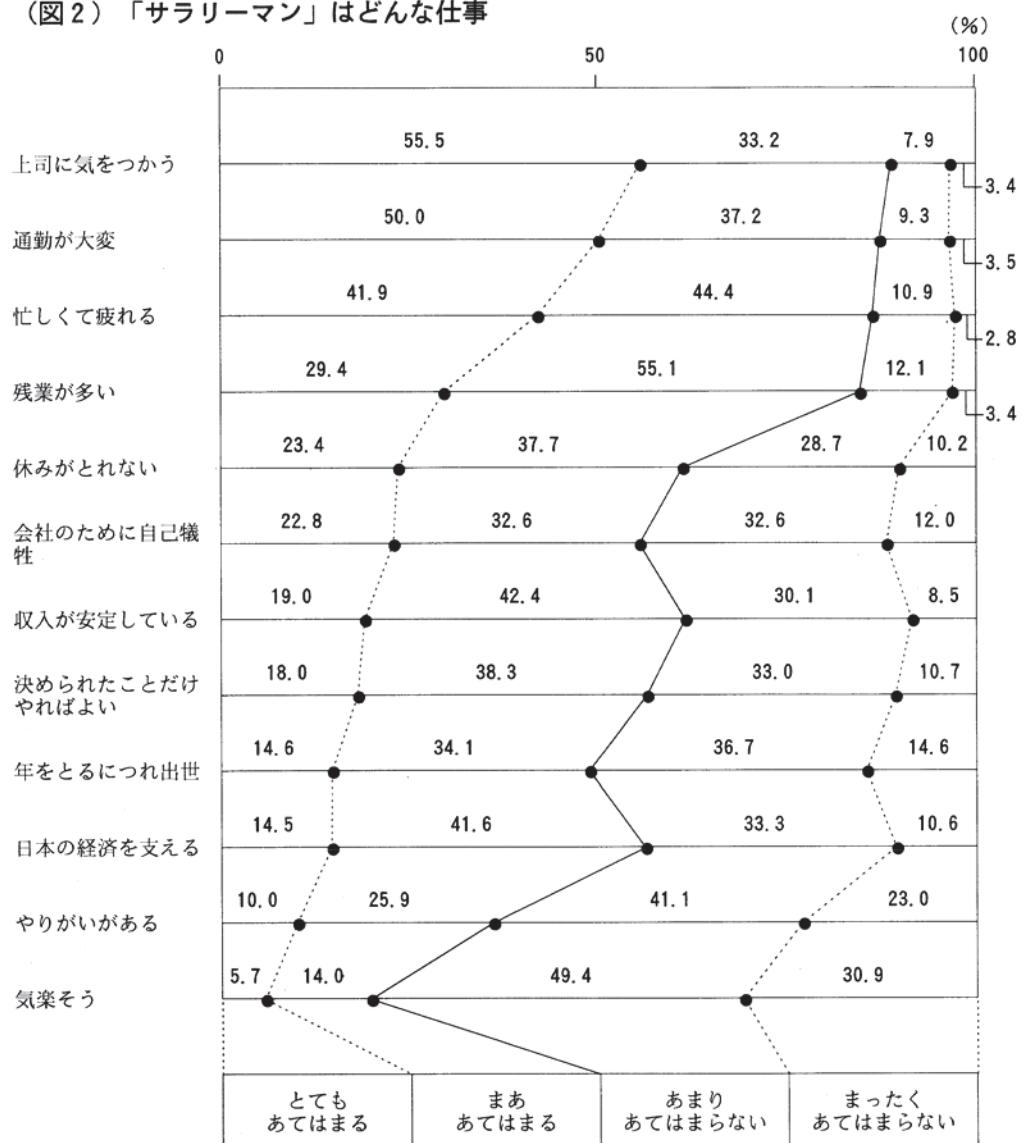
このように、サラリーマンは大変だと思っている割合は、父親がサラリーマン以外の生徒に多い。父親がサラリーマンだと、父親を通して、サラリーマンが大変なのは確かだが、それほどではないと思う。しかし、父親がサラリーマン以外だと、大変だという気持ちが増す。大変さのイメージがふくらむからなのであろうか。

なお、生徒たちは、会社が求めている人はどういうタイプなのかについて、図5のように答えている。

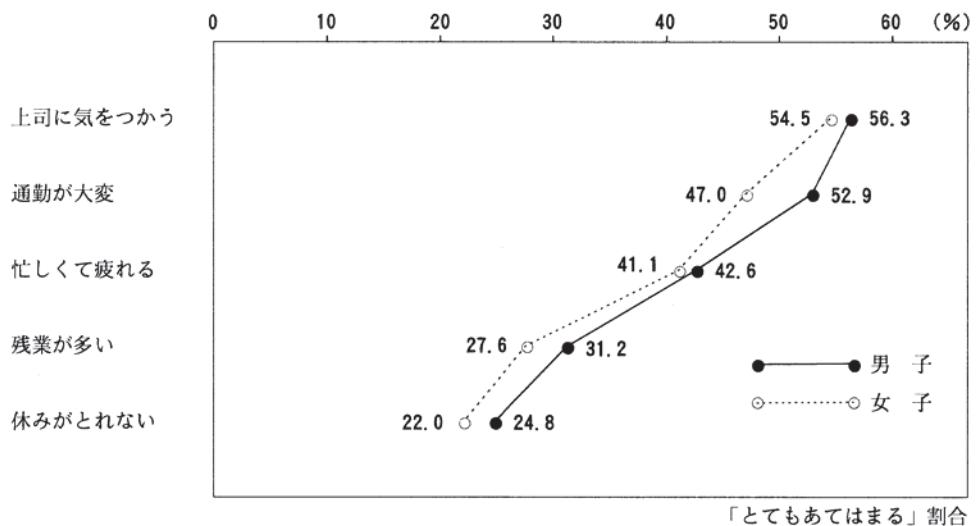
1. コンピュータを使える人
2. 英語が話せる人
3. 高学歴の人
4. 学校の成績がよかった人

それなりによくわかる判断で、生徒たちは中学生なりに職業に対して具体的なイメージをもっているようと思われる。

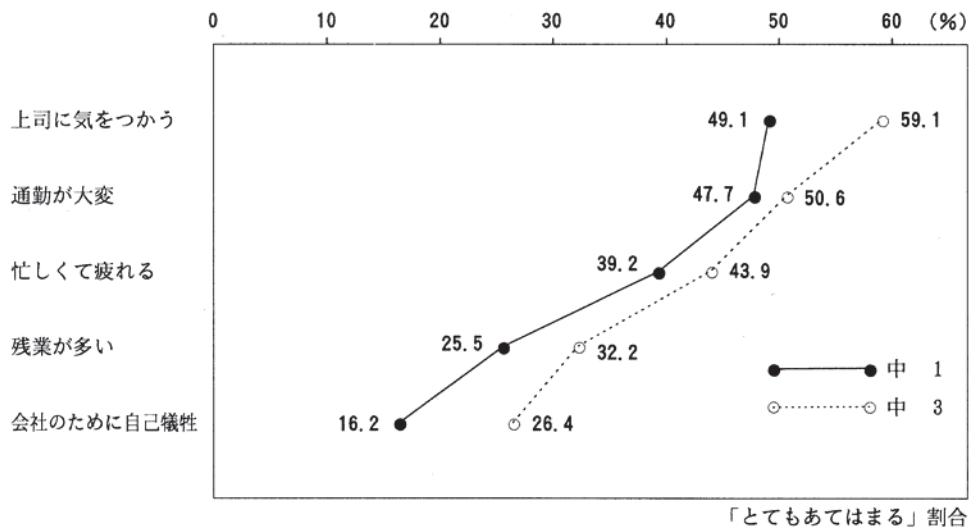
(図2) 「サラリーマン」はどんな仕事



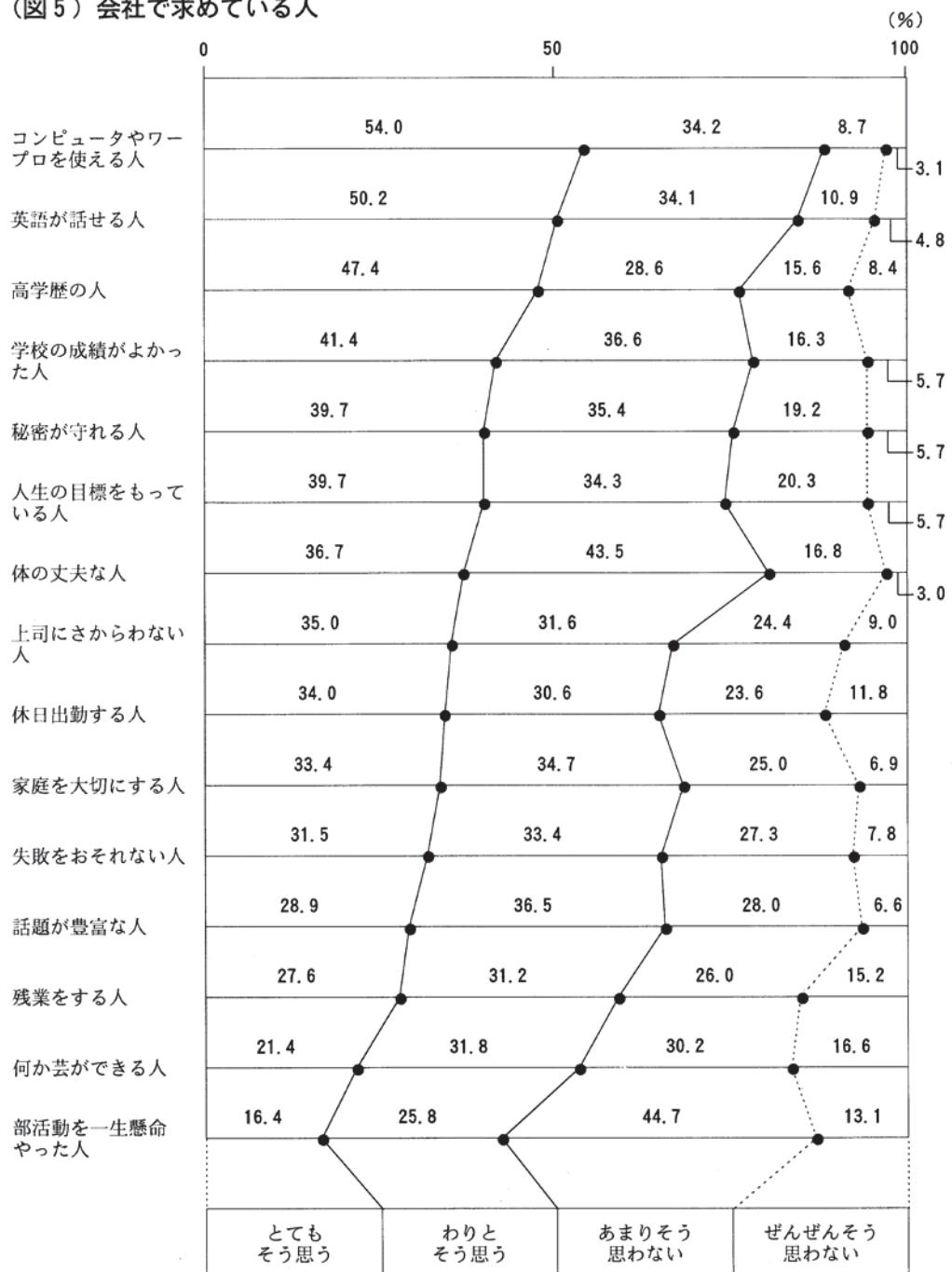
(図3) サラリーマンの仕事 × 性差



(図4) サラリーマンの仕事 × 学年



(図5) 会社で求めている人



3. つきたい仕事

それでは生徒たちは、どういう仕事につきたいと思っているのか。具体的な職種名については後にふれることにしたいが、図6のように、つきたい仕事についてのイメージを具体的にもっている生徒が多い。

さらに図7によれば、女子よりは男子のほうが、つきたい仕事について知っている割合が多い。女子は仕事につくというより、専業主婦も含めた家庭生活に関心を抱いているので、仕事に対するイメージがわきにくいのであろう。

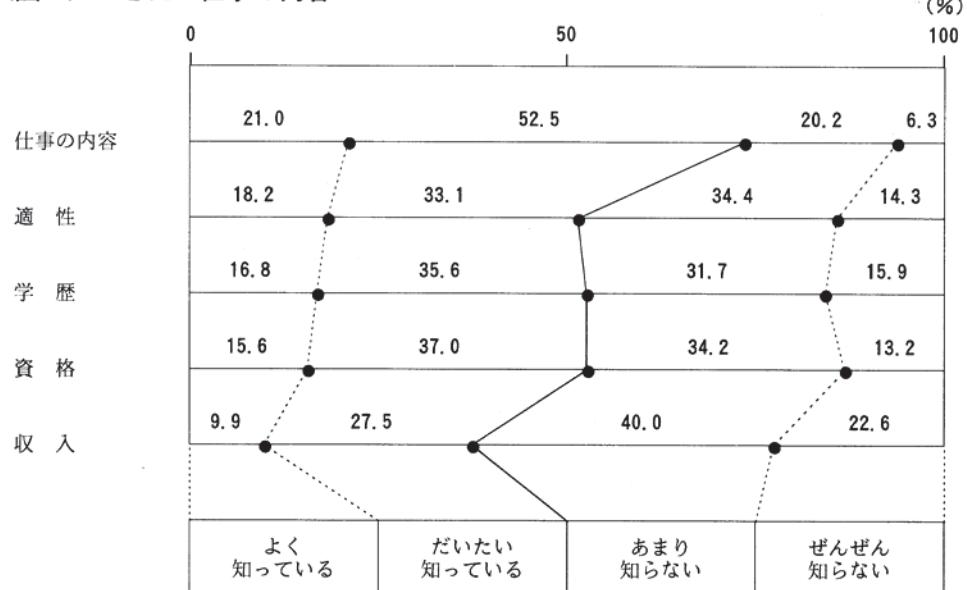
また図8によれば、中1から中2、そして中3—図の関係で中2は省略してあるが—に

なるにつれて、仕事に対するイメージが固定化していく。つきたいと思う仕事の内容や、それに求められる適性がよりわかってくるのが中学3年生という結果である。

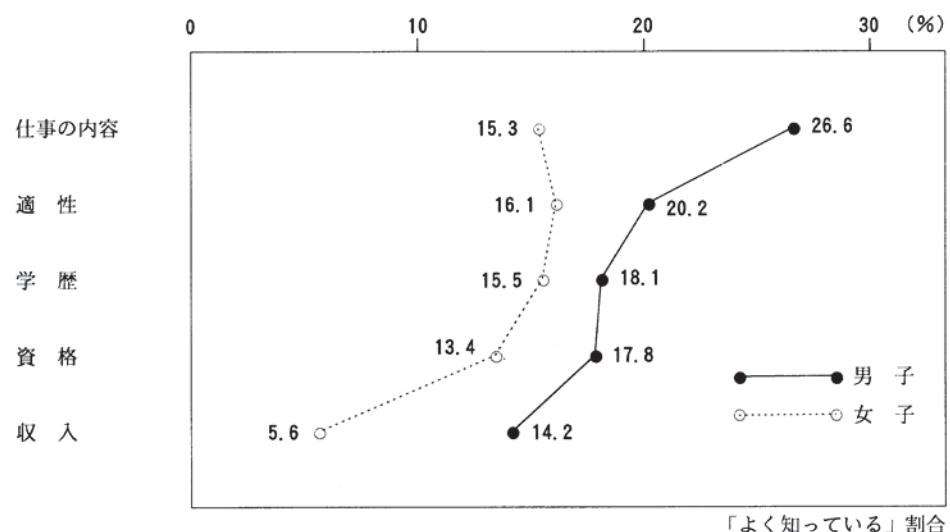
学年が上がるにつれて、仕事についてのイメージが具体化している。職業に対する態度が、中学時代を通して形成されていくのであろう。

また、学業成績との関連では、成績の上位層のほうが仕事に対し、しっかりととしたイメージを抱いている（図9）。成績がよいと、将来に自信をもてるからなのであろうか。

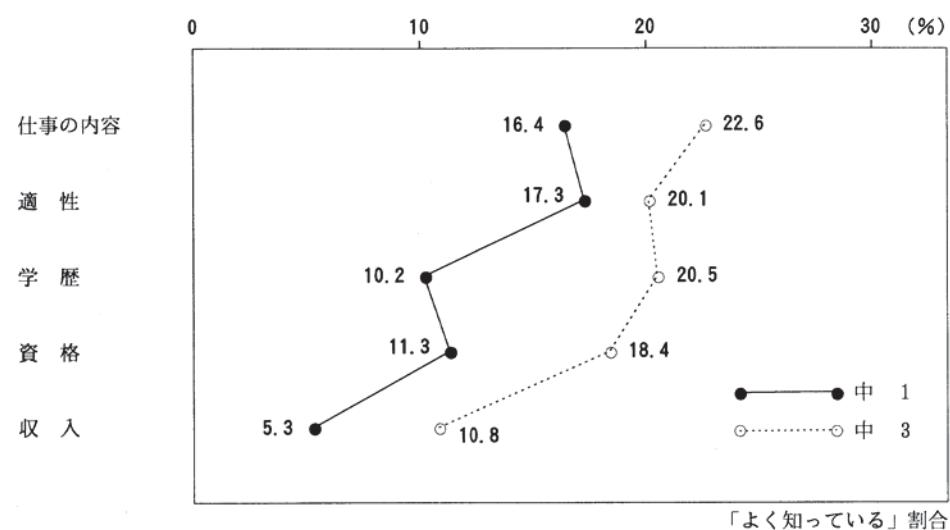
（図6）つきたい仕事の内容



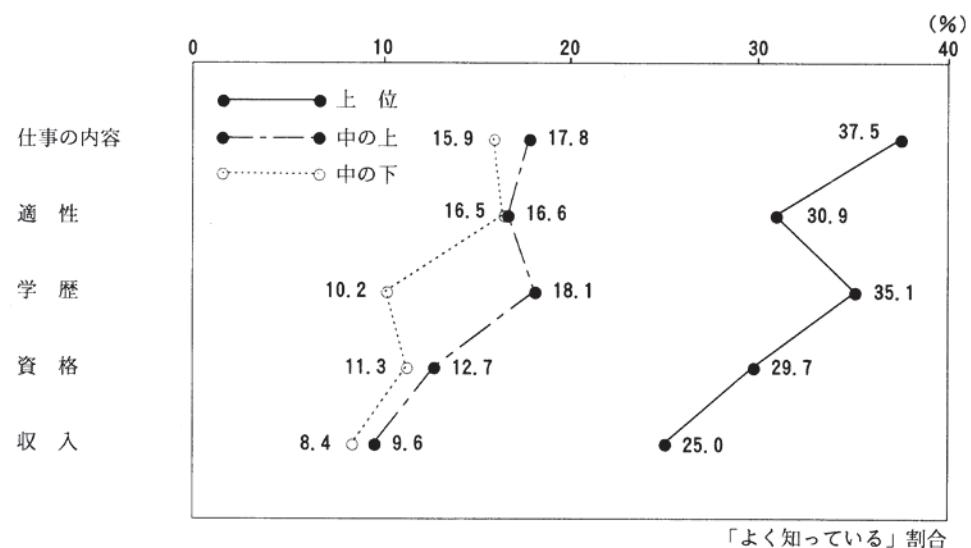
(図7) つきたい仕事 × 性差



(図8) つきたい仕事 × 学年



(図9) つきたい仕事 × 学業成績



4. これから的人生

それでは、もう少し具体的に将来の人生についての見通しを尋ねると、図10の通りとなる。

図中の「とても」「かなり」無理の割合が示すように、全体としてみると、将来が暗いと思っている割合が多い。

<見通しが明るい>

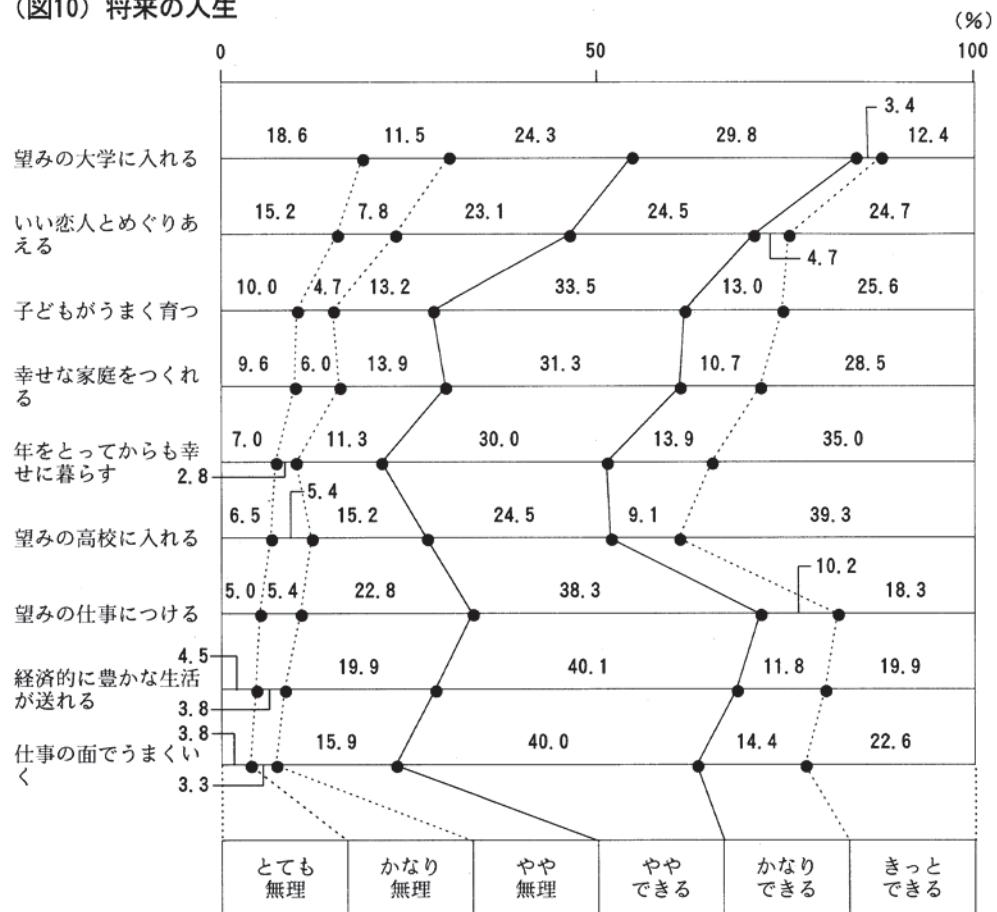
1. 年をとってからも幸せ (48.9%)
2. 望みの高校に入る (48.4%)

<見通しが暗い>

1. 望みの大学に入る (15.8%)
2. 望みの仕事につける (28.5%)

(「きっと」「かなり」できる割合)

(図10) 将来の人生



そして図11によると、将来の人生についての見通しに、男子と女子との間に開きが認められる。

<女子のほうが見通しが明るい>

1. 望みの高校に入る
2. 幸せな家庭をつくれる

<男子のほうが見通しが明るい>

1. 仕事がうまくいく
2. 望みの仕事につける

つきつめでいうと、女子は将来の家庭について明るい未来を信じているのに対し、男子

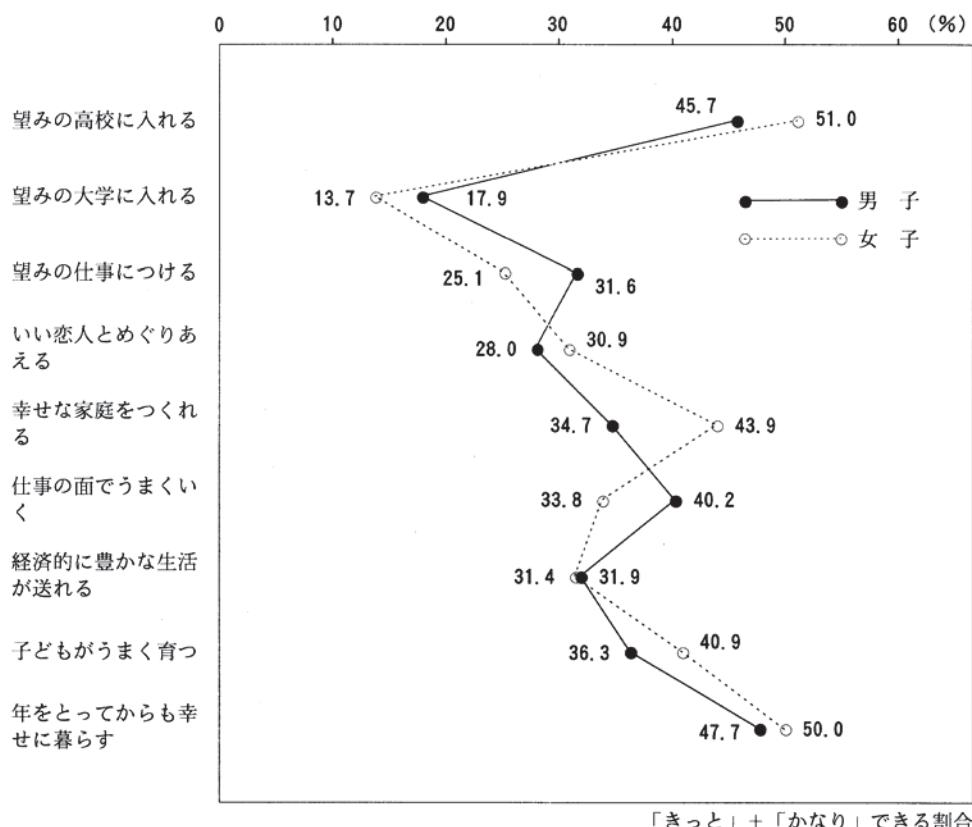
は仕事に自信をもっている感じである。

また学年に関しては、図12のように、中3は将来について明るい見通しを抱いている。

さらに表4によると、学業成績に関しては、成績上位の生徒のほうが将来に明るい見通しをもっているのがわかる。表中の下位／上位の欄から明らかなように、全体として、上位の生徒が「できそう」と思う割合を100とした場合、成績が下位の生徒が抱く見通しの低い項目から列挙すると、以下のようなになる。

1. 望みの大学に入る (15.9%)

(図11) 将来の人生 × 性差



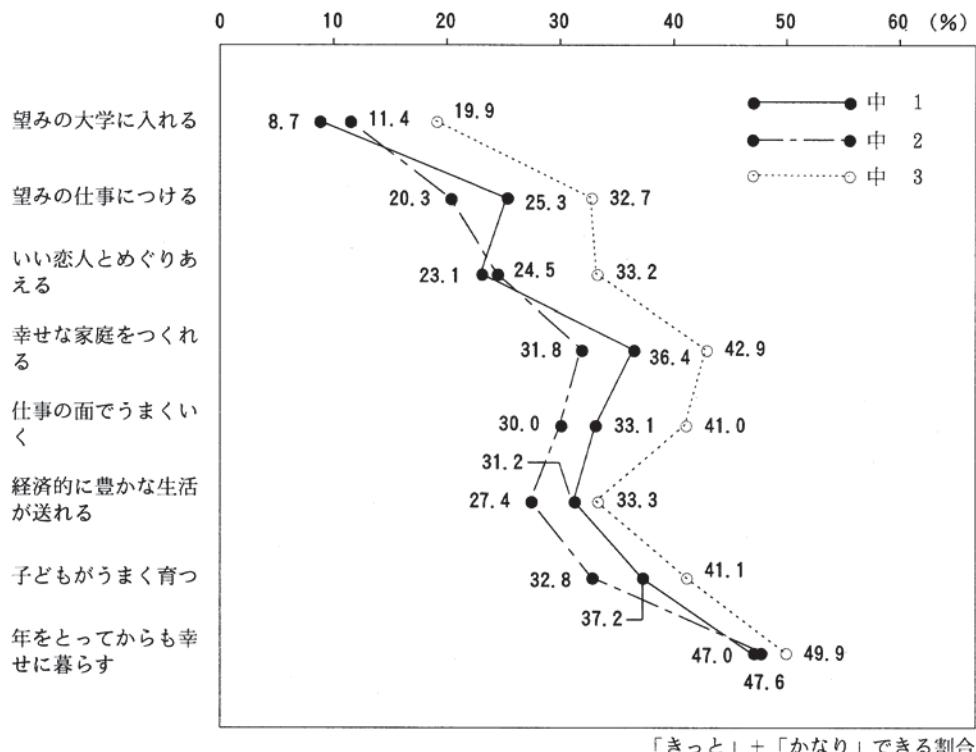
2. 豊かな生活が送れる (35.9%)
 3. 望みの高校に入る (42.9%)
 4. 望みの仕事につける (46.8%)
 (成績上位を100として下位の割合)

したがって、学業成績は高校や大学などの進学に関連すると同時に、経済的に豊かな生活にも影響を及ぼすということであろう。そして、学業成績が下位になるにつれて、生徒たちはよい仕事につけそうもないと思うよう

になる。

このように中学生たちは、それなりのイメージで自分の未来をみつめているように見える。図13によれば、中学生は、仕事をもったときの初任給は14万円くらいだろうと見込んでいる。これもおおむね妥当な数値で、そうした意味で、生徒たちはかなりクールに自分の職業生活を見通しているような印象を受ける。

(図12) 将来の人生 × 学年

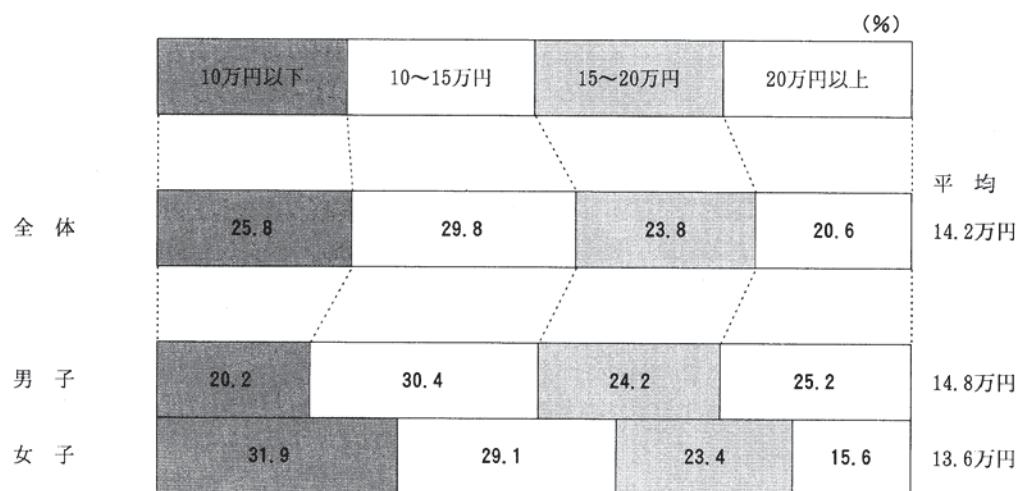


(表4) 将来の人生 × 学業成績

	上位	中位	下位	(%)
				下位 上位
望みの高校に入れる	59.5	41.9	25.5	42.9
望みの大学に入れる	34.6	9.9	5.5	15.9
望みの仕事につける	33.1	14.3	15.5	46.8
いい恋人とめぐりあえる	40.2	22.5	22.5	56.0
幸せな家庭をつくる	41.2	26.9	23.0	55.8
仕事の面でうまくいく	35.9	21.7	16.9	47.1
経済的に豊かな生活が送れる	34.8	19.9	12.5	35.9
子どもがうまく育つ	38.6	22.7	24.7	64.0
年をとってからも幸せに暮らす	47.7	33.6	32.6	68.3

「きっと」+「かなり」できる割合

(図13) 初任給



第Ⅱ章 つける仕事とつきたい仕事



1. がんばればつけるか

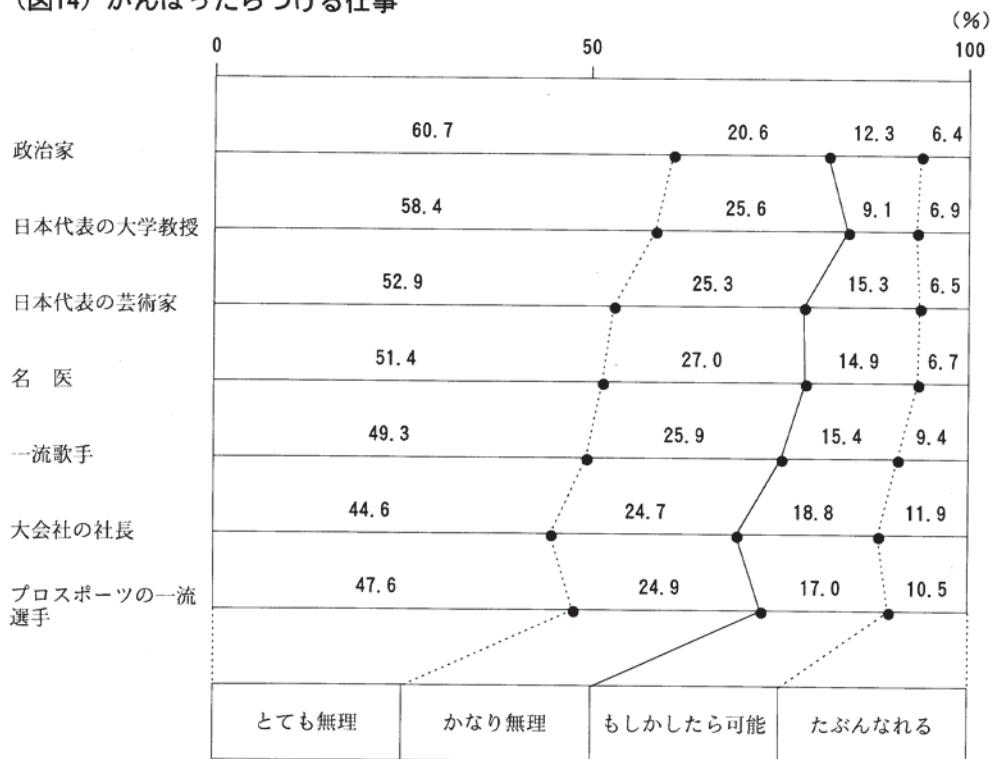
中学生に限らず、子どもたちは未来に夢を抱く。青少年の時期は、どの子も無限の可能性を宿している。

欧米で子どもたちにつきたい仕事を尋ねると、明るく夢を語ってくれる。しかし日本の子どもたちは、どうしたことか、こうした夢を語らずに、幸せな家庭といった狭い世界に夢を託そうとしている。

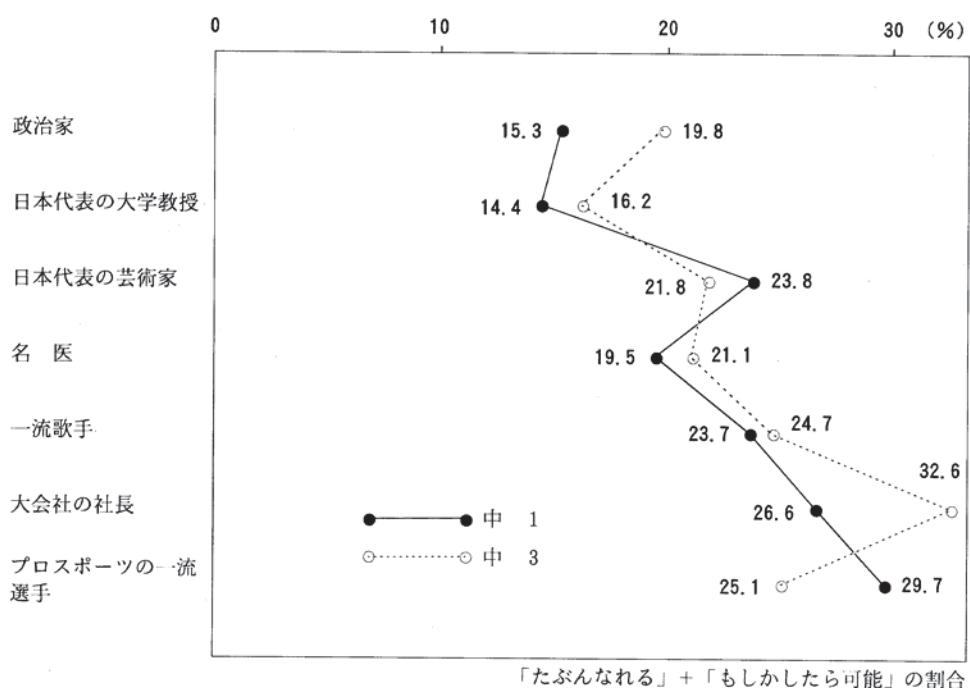
そこで生徒たちに、ビッグな目標を示して、こうしたゴールへ到達できそうかを尋ねてみ

ると、図14の通りである。名医や芸術家などは、がんばってもつけそうもないと思っている生徒が7割を超える。しかも、中1から中3と学年が上がっても、こうしたビッグな目標へたどりつけそうと思える割合は増加しない（図15）。もっとも図16によると、学業成績の上位層は、もしかすれば名医や大企業の社長になれるかもしれないと思っているのが注目される。

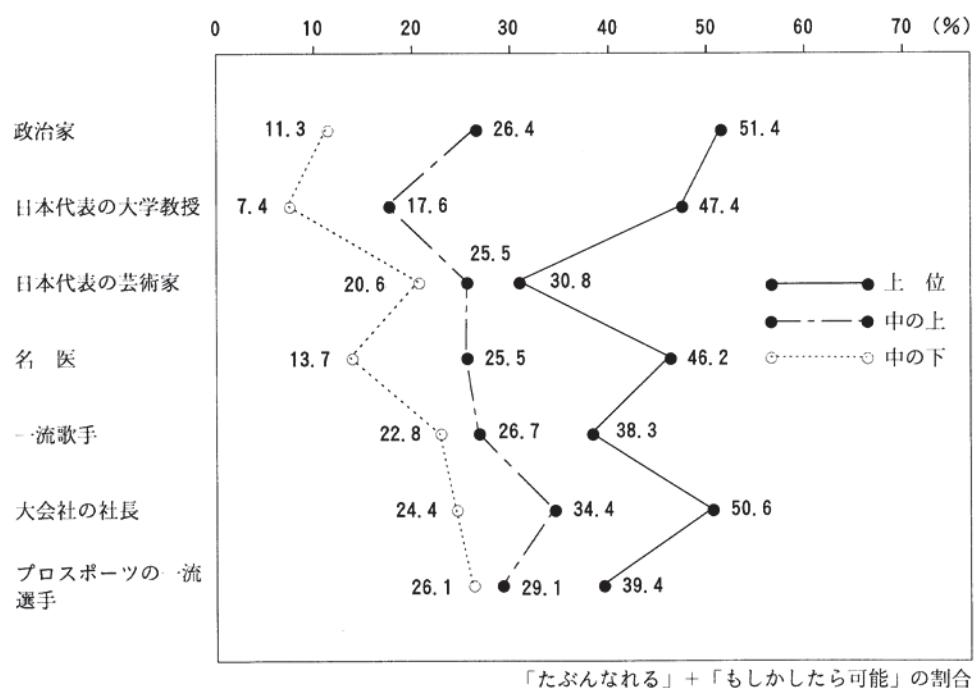
(図14) がんばったらつける仕事



(図15) がんばったらつける仕事 × 学年



(図16) がんばったらつける仕事 × 学業成績



2. つけそうな仕事

図14は、あくまでビッグな目標であった。したがって、多くの生徒たちがそうしたゴールへたどりつけないと思うのが当然なのかもしれない。

そこで、さまざまな職種を示して、「つきたいと思えば必ずつけるという気持ちのする仕事」をチェックしてもらうことにした。

「つこうと思えば必ずつける」仕事の割合を表5に示した。もちろん仕事は、男子と女子では見通しが異なると思うので、表中の右欄に、男子を100としたときの女子の比率をまとめてみた。

<男子のほうがなりやすいと思える仕事>

1. 総理大臣 (10.3%)
2. 自動車の整備士 (18.1%)
3. プロスポーツの選手 (18.5%)

<女子のほうがなりやすいと思える仕事>

1. 美容師 (428.8%)
2. 花屋 (265.1%)
3. イラストレーター (246.7%)

<男女の差の少ない仕事>

1. スナックのマスター (86.0%)
2. 公務員 (85.8%)
3. 医者 (84.4%)

したがって、男女比で着目すると、男子向きが自動車の整備士、女子が美容師、そして

男女共通なのが、公務員という感じになる。

なお、男女それぞれに、つけると思う割合の高い職種の上位4項目をまとめると、表6の通りとなる。

〔男子〕

1. サラリーマン
2. デパートの店員
3. プロスポーツの選手

〔女子〕

1. デパートの店員
2. 花屋
3. 美容師

つけるといっても、学年によって、つけると思える職種が変わってくるのではないか。そう考えて、つける仕事を学年別に分析すると表7のようになる。

<学年が上がるにつきやすいと思える仕事>

1. 公務員 (942.9%)
2. パイロット (860.0%)
3. 新聞記者 (822.2%)

<学年が上がるにつきにくいと思える仕事>

1. プロスポーツの選手 (56.7%)
2. スーパーの店長 (101.5%)
3. テレビタレント (108.0%)

(中1を100として中3の割合)

(表5) つける仕事 × 性差

(%)

	全 体	男 子	女 子	女子 ／ 男子
1. プロスポーツの選手	10.1	16.8	3.1	18.5
2. 通 訳	8.1	4.9	11.5	234.7
3. コンピュータのプログラマー	9.6	11.7	7.3	62.4
4. 一流企業の社長	5.6	8.7	2.3	26.4
5. 医 者	5.9	6.4	5.4	84.4
6. 美容師	13.6	5.2	22.3	428.8
7. テレビタレント	7.6	6.9	8.4	121.7
8. デパートの店員	25.0	17.4	32.9	189.1
9. イラストレーター	7.8	4.5	11.1	246.7
10. 小説家	7.0	5.0	9.1	182.0
11. 花 屋	19.7	10.9	28.9	265.1
12. 弁護士	3.9	5.7	2.1	36.8
13. ニュースキャスター	4.1	3.4	4.9	144.1
14. 総理大臣	5.5	9.7	1.0	10.3
15. マンガ家	5.6	5.0	6.3	126.0
16. 中学校の先生	8.0	6.5	9.6	147.7
17. 建築技師	6.8	10.7	2.8	26.2
18. ふつうのサラリーマン	23.7	34.1	12.9	37.8
19. パイロット	3.2	4.5	1.9	42.2
20. 大学教授	3.9	6.0	1.7	28.3
21. 市役所の公務員	9.8	10.6	9.1	85.8
22. 大 工	9.3	15.1	3.3	21.9
23. 自動車の整備士	8.6	14.4	2.6	18.1
24. 新聞記者	5.8	6.5	5.1	78.5
25. スナックのマスター	5.3	5.7	4.9	86.0
26. 自衛隊員	6.3	10.1	2.4	23.8
27. スーパーの店長	5.9	6.5	5.2	80.0
28. 農 業	10.2	12.2	8.0	65.6
29. タクシーの運転手	8.1	11.6	4.5	38.8

(表6) つける仕事(上位4項目)

	全 体	男 子	女 子	(%)
デパートの店員	①25.0	②17.4	①32.9	
ふつうのサラリーマン	②23.7	①34.1	④12.9	
花 屋	③19.7	10.9	②28.9	
美容師	④13.6	5.2	③22.3	
プロスポーツの選手	10.1	③16.8	3.1	
大 工	9.3	④15.1	3.3	

(表7) つける仕事 × 学年

	中 1	中 2	中 3	(%) 中3 中1
1. プロスポーツの選手	15.0	10.3	8.5	56.7
2. 通 訳	5.1	4.6	10.4	203.9
3. コンピュータのプログラマー	5.6	6.5	12.0	214.3
4. 一流企業の社長	4.2	3.8	6.5	154.8
5. 医 者	5.1	6.1	6.1	119.6
6. 美容師	9.3	13.4	15.0	161.3
7. テレビタレント	7.5	6.5	8.1	108.0
8. デパートの店員	19.2	26.3	26.4	137.5
9. イラストレーター	7.0	7.6	8.1	115.7
10. 小説家	4.2	6.5	7.9	188.1
11. 花 屋	15.0	18.7	21.7	144.7
12. 弁護士	1.4	3.4	4.8	342.9
13. ニュースキャスター	3.3	3.1	4.8	145.5
14. 総理大臣	4.7	4.6	5.8	123.4
15. マンガ家	5.6	3.4	6.5	116.1
16. 中学校の先生	3.3	5.7	10.4	315.2
17. 建築技師	3.3	6.9	7.9	239.4
18. ふつうのサラリーマン	17.3	24.4	25.4	146.8
19. パイロット	0.5	2.7	4.3	860.0
20. 大学教授	2.8	4.2	4.0	142.9
21. 市役所の公務員	1.4	8.0	13.2	942.9
22. 大 工	6.5	9.2	10.3	158.5
23. 自動車の整備士	2.8	8.4	10.5	375.0
24. 新聞記者	0.9	5.7	7.4	822.2
25. スナックのマスター	1.9	6.1	6.1	321.1
26. 自衛隊員	1.9	5.0	8.2	431.6
27. スーパーの店長	6.5	3.1	6.6	101.5
28. 農 業	6.5	8.4	12.0	184.6
29. タクシーの運転手	2.3	6.9	10.4	452.2

3. ついてみたい仕事

仕事には「つける」と「つきたい」との区別があろう。つけないかもしれないが、しかし、ついてみたい仕事があるのではないか。

そこで、表5と同じ職種について、「なれる、なれないは別として、ついてみたいと思う仕事」を尋ねてみた。

結果は表8の通りで、これを男女別に、ついてみたいと思う割合の高い仕事の上位4つを抜きとてみると、図17の通りとなる。

〔男子〕

1. プロスポーツの選手 (36.0%)
2. 通訳 (31.0%)
3. 一流企業の社長 (28.2%)
4. プログラマー (24.0%)

〔女子〕

1. プロスポーツの選手 (37.5%)
2. 美容師 (32.9%)
3. デパートの店員 (26.0%)
4. イラストレーター (22.8%)

プロスポーツの選手は、男女ともになりたいと思っている。そうした中で、男子がもっとなりたいのが通訳、女子が美容師となる。

また学年別に、ついてみたい仕事の変化を確かめると、表9の通りとなる。

〈学年が上がるにつれて、なりたい割合の減少する仕事〉

1. スーパーの店長 (77.3%)
2. イラストレーター (82.4%)
3. 大工 (83.1%)
4. 美容師 (95.2%)
5. プロスポーツの選手 (95.9%)

〈学年が上がるにつれて、なりたい割合の増加する仕事〉

1. スナックのマスター (557.1%)
2. 公務員 (456.5%)
3. 弁護士 (400.0%)
3. 新聞記者 (400.0%)
5. 中学校の先生 (359.5%)

(中1を100として中3の割合)

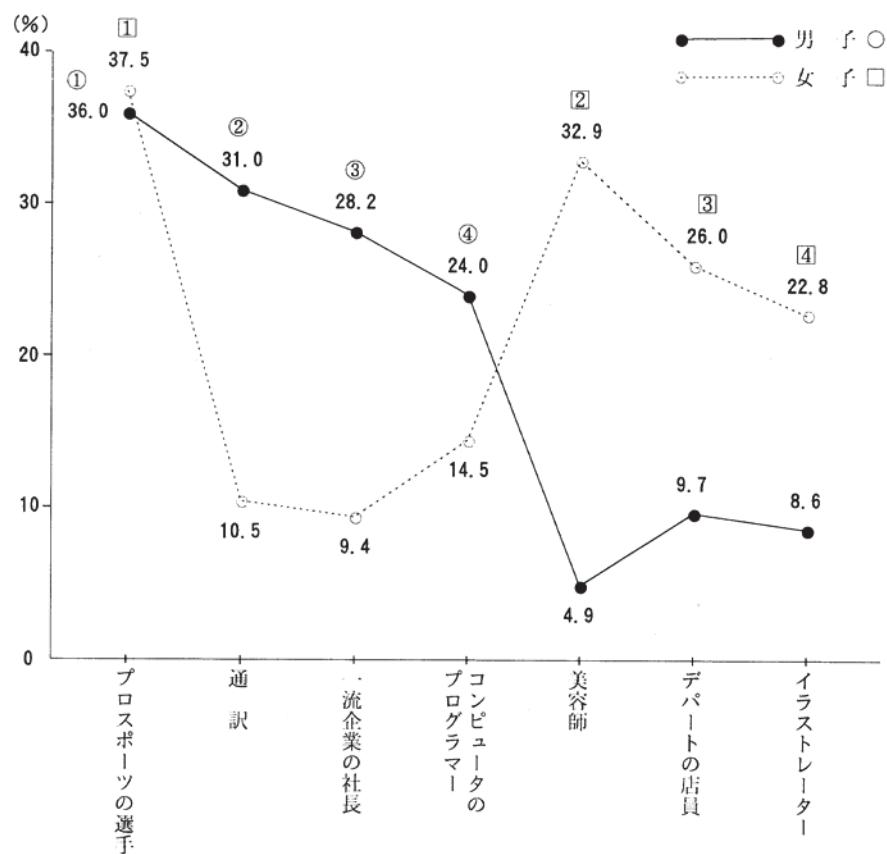
なお、ついてみたい職、それほどつきたくない職の5位までを選んで、学業成績とクロスさせてみると表10のように、それほどつきたくない仕事は、成績が上位でも下位でも、その割合はそれほど変わりはない。しかし、ついたいと思う割合の高い人気のある職種は一流企業の社長38.5%（上位を100として下位のなりたい割合）、医者51.7%、通訳50.0%のように、下位になるにつれて、つけそうもないと思う割合が増す。

(表8) についてみたい仕事 × 性差

(%)

	全 体	男 子	女 子	女子 ／ 男 子
1. プロスポーツの選手	23.2	36.0	37.5	104.2
2. 通 訳	20.3	31.0	10.5	33.9
3. コンピュータのプログラマー	19.3	24.0	14.5	60.4
4. 一流企業の社長	19.0	28.2	9.4	33.3
5. 医 者	18.6	16.8	19.7	117.3
6. 美容師	18.6	4.9	32.9	671.4
7. テレビタレント	18.5	18.8	18.1	96.3
8. デパートの店員	17.7	9.7	26.0	268.0
9. イラストレーター	15.6	8.6	22.8	265.1
10. 小説家	14.4	9.6	17.4	181.3
11. 花 屋	13.4	4.5	22.6	502.2
12. 弁護士	13.2	14.4	12.0	83.3
13. ニュースキャスター	13.2	8.2	18.3	223.2
14. 総理大臣	11.7	19.8	3.3	16.7
15. マンガ家	11.5	7.7	15.3	198.7
16. 中学校の先生	11.1	7.4	15.0	202.7
17. 建築技師	10.9	15.4	6.3	40.9
18. ふつうのサラリーマン	10.1	16.4	3.5	21.3
19. パイロット	9.8	14.1	5.4	38.3
20. 大学教授	9.1	11.9	6.1	51.3
21. 市役所の公務員	8.6	9.2	8.0	87.0
22. 大 工	7.9	13.4	2.1	15.7
23. 自動車の整備士	7.3	13.4	0.9	6.7
24. 新聞記者	7.2	7.2	7.1	98.6
25. スナックのマスター	6.1	8.6	3.5	40.7
26. 自衛隊員	5.7	9.6	1.7	17.7
27. スーパーの店長	5.6	11.6	3.0	25.9
28. 農 業	5.5	7.2	3.7	51.4
29. タクシーの運転手	3.6	6.7	0.3	4.5

(図17) ついてみたい仕事 × 性差 (男女上位4項目)



(表9) ついてみたい仕事 × 学年

(%)

	中 1	中 2	中 3	中3 中1
1. プロスポーツの選手	22.0	30.0	21.1	95.9
2. 通訳	15.0	13.0	24.7	164.7
3. コンピュータのプログラマー	15.9	19.1	20.5	128.9
4. 一流企業の社長	14.0	17.2	21.0	150.0
5. 医者	13.6	18.7	19.9	146.3
6. 美容師	18.7	21.0	17.8	95.2
7. テレビタレント	14.5	18.3	19.7	135.9
8. デパートの店員	12.6	19.5	18.6	147.6
9. イラストレーター	17.6	16.8	14.5	82.4
10. 小説家	10.3	16.0	14.9	144.7
11. 花屋	12.6	14.5	13.3	105.6
12. 弁護士	4.2	11.1	16.8	400.0
13. ニュースキャスター	10.7	12.2	14.3	133.6
14. 総理大臣	8.9	11.1	12.7	142.7
15. マンガ家	9.8	11.5	11.8	120.4
16. 中学校の先生	3.7	11.5	13.3	359.5
17. 建築技師	6.5	13.0	11.6	178.5
18. ふつうのサラリーマン	10.3	10.3	10.0	97.1
19. パイロット	5.6	9.5	11.3	201.8
20. 大学教授	7.0	8.0	10.0	142.9
21. 市役所の公務員	2.3	8.8	10.5	456.5
22. 大工	8.9	8.0	7.4	83.1
23. 自動車の整備士	3.7	5.7	9.0	243.2
24. 新聞記者	2.3	5.3	9.2	400.0
25. スナックのマスター	1.4	5.3	7.8	557.1
26. 自衛隊員	3.7	3.1	5.8	156.8
27. スーパーの店長	7.5	3.4	5.8	77.3
28. 農業	3.7	4.2	6.5	175.7
29. タクシーの運転手	2.8	2.3	4.3	153.6

(表10) ついてみたい × 学業成績

					(%)
		上 位	中 位	下 位	下位 ／上位
つ い て み た い	プロスポーツの選手	32.3	21.4	22.8	70.6
	通 訳	24.8	21.7	12.4	50.0
	コンピュータのプログラマー	17.3	19.3	12.4	71.7
	一流企業の社長	33.8	19.6	13.0	38.5
	医 者	27.1	19.0	14.0	51.7
そ れ は ど つ き た く な い	タクシーの運転手	12.0	10.6	11.4	95.0
	農 業	9.0	3.2	7.3	81.1
	スーパーの店長	6.8	5.8	6.2	91.2
	自衛隊員	8.3	5.6	6.7	80.7
	スナックのマスター	8.3	5.0	8.8	106.0

4. 「つける」と「ついてみたい」との距離

つけそうな仕事はつきたくないし、つきた
い仕事はつけそうもないというのが、職業と
いうものであろう。

そこで「ついてみたい」と「つける」との
距離を、以下のような形で確かめてみた。

$$\frac{\text{つける割合}}{\text{ついてみたい割合}} = \text{到達可能性}$$

当然、数値が大きいほど、つける割合が高い。逆に数値が低いほど、つきにくい仕事という計算になる。くわしくは表11を参照してほしいが、男女別に、つきやすい(「つける」と「ついてみたい」との差が少ない)仕事、つきにくい仕事(「つける」と「ついてみたい」との差が大きい)との4位までを示すと以下のようになる。

<つきにくい仕事>

〔男子〕

1. 通訳 (15.8%)
2. 一流企業の社長 (30.9%)
3. パイロット (31.9%)
4. テレビタレント (36.7%)

〔女子〕

1. プロスポーツの選手 (8.3%)
2. 弁護士 (17.5%)
3. 一流企業の社長 (24.5%)
4. ニュースキャスター (26.8%)

<つきやすい仕事>

〔男子〕

1. 花屋 (242.2%)
2. サラリーマン (207.9%)
3. デパートの店員 (179.4%)
4. タクシーの運転手 (173.1%)

〔女子〕

1. サラリーマン (368.6%)
2. 自動車の整備士 (288.9%)
3. 農業 (216.2%)
4. スーパーの店長 (173.3%)

こうみると、サラリーマンやデパートの店員にはなれると思うが、可能ならば男子は通訳かパイロットになりたいと思い、女子は弁護士やニュースキャスターを志望したいという。

こうした傾向を男子についてまとめてみると、図18のようになり、サラリーマンはつけると思うがついてみたいという気がしない。それに対し、通訳はつきたいがつけそうもないとなる。また女子は、図19のよう、花屋はなれると思うが、なりたいという気持ちになれない。プロスポーツの選手はなりたいが、とてもなれそうもないとなる。

男女ともに、サラリーマンなら、なんとかなれるだろう。しかし、サラリーマンとしての人生でない生き方をしたいというのが、多くの中学生たちの気持ちのように思える。

(表11) 「つける」と「ついてみたい」との距離 × 性差

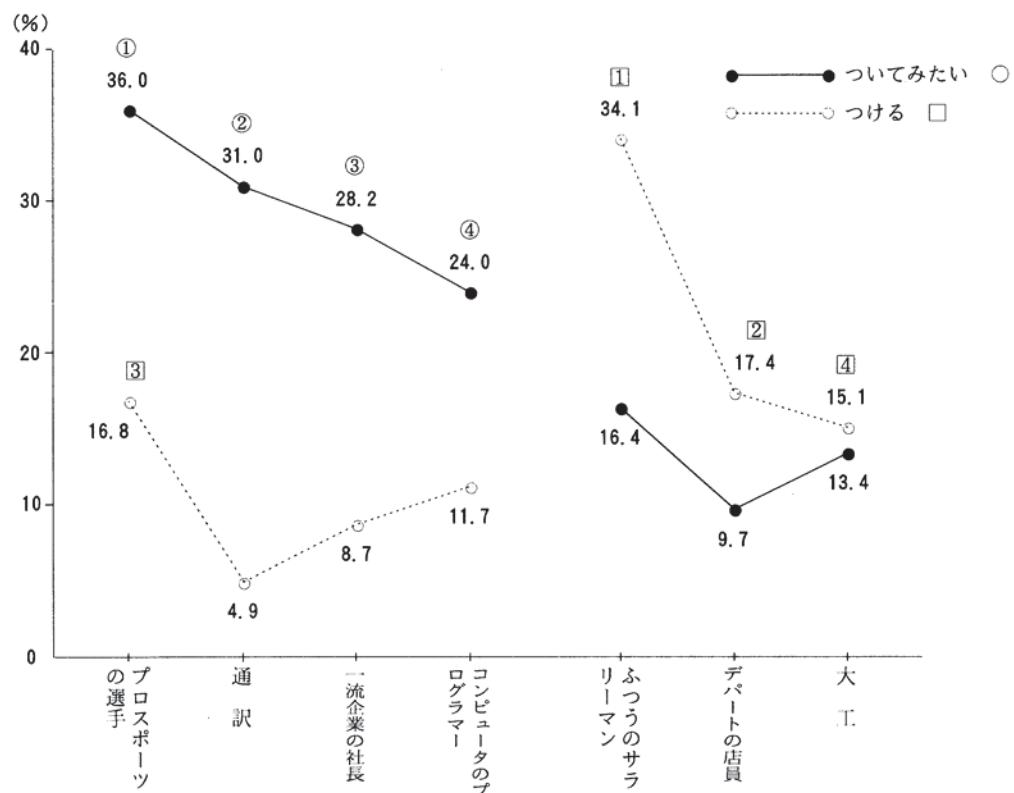
(%)

	男 子	女 子
1. プロスポーツの選手	46.7	① 8.3
2. 通 訳	① 15.8	109.5
3. コンピュータのプログラマー	48.8	50.3
4. 一流企業の社長	② 30.9	③ 24.5
5. 医 者	⑤ 38.1	⑤ 27.4
6. 美容師	106.1	67.8
7. テレビタレント	④ 36.7	46.4
8. デパートの店員	③ 179.4	126.5
9. イラストレーター	52.3	48.7
10. 小説家	52.1	52.3
11. 花 屋	① 242.2	127.9
12. 弁護士	39.6	② 17.5
13. ニュースキャスター	41.5	④ 26.8
14. 総理大臣	49.0	30.3
15. マンガ家	64.9	41.2
16. 中学校の先生	87.8	64.0
17. 建築技師	69.5	44.4
18. ふつうのサラリーマン	② 207.9	① 368.6
19. パイロット	③ 31.9	35.2
20. 大学教授	50.4	27.9
21. 市役所の公務員	115.2	113.8
22. 大 工	112.7	⑤ 157.1
23. 自動車の整備士	107.5	② 288.9
24. 新聞記者	90.3	71.8
25. スナックのマスター	66.3	140.0
26. 自衛隊員	105.2	141.2
27. スーパーの店長	56.0	④ 173.3
28. 農 業	⑤ 169.4	③ 216.2
29. タクシーの運転手	④ 173.1	150.0

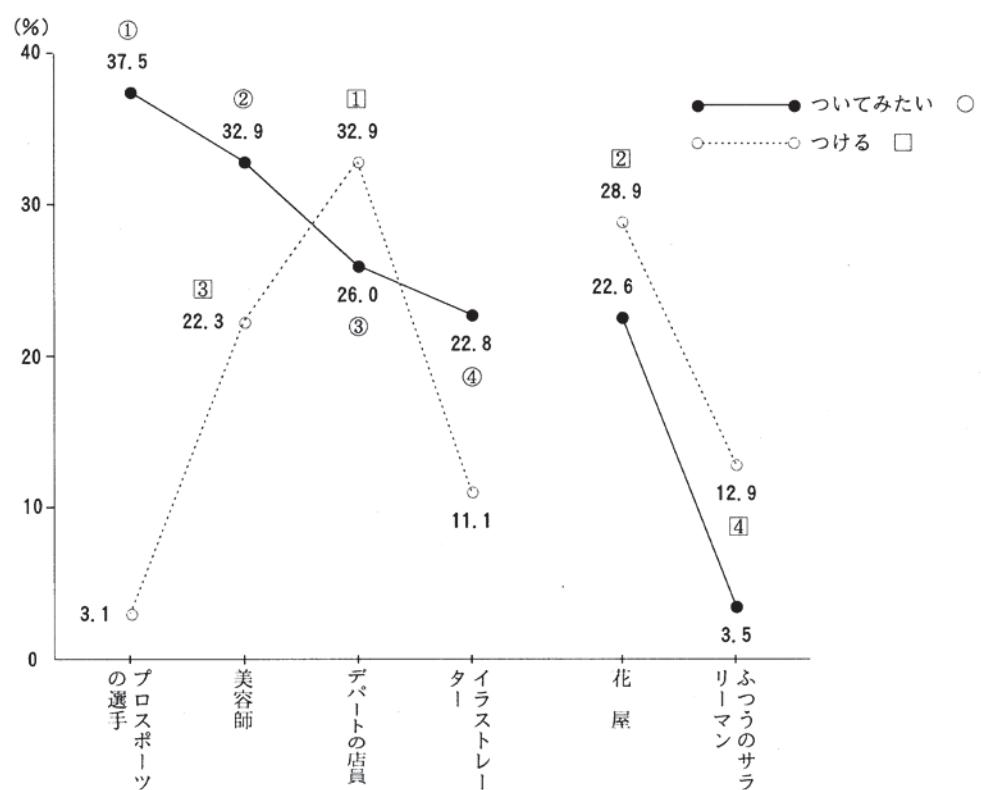
つける = 到達可能率
ついてみたい

○=つけそう
□=つけそうもない

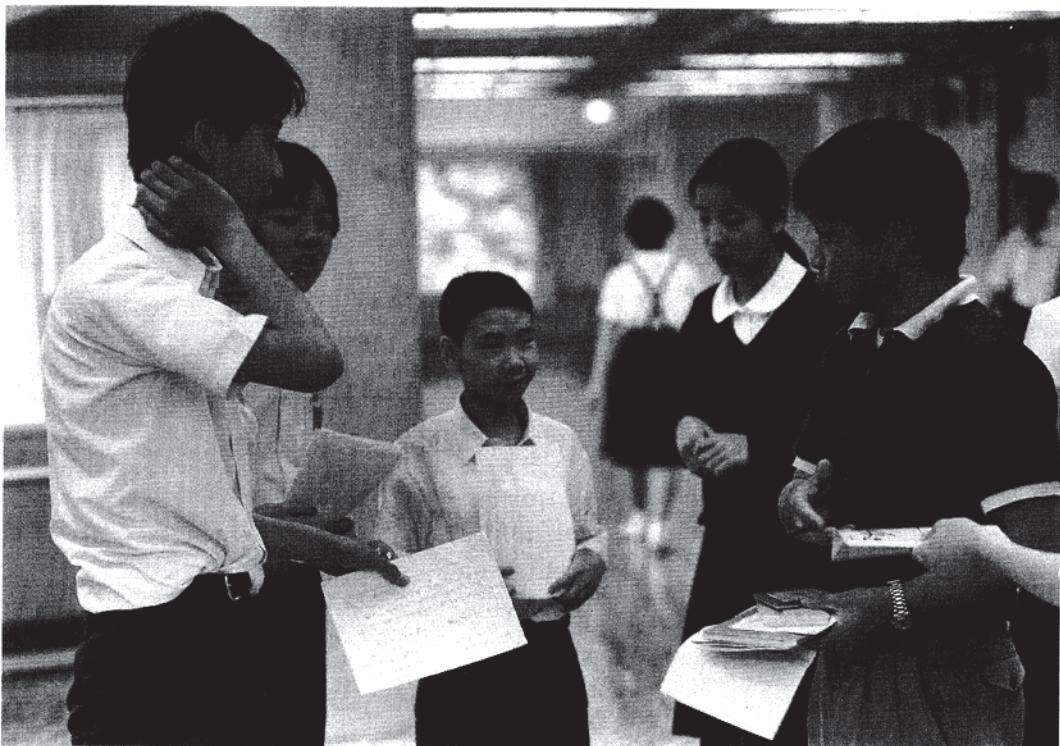
(図18) 「つける」と「ついてみたい」との距離 (男子) — それぞれ上位 4 種



(図19) 「つける」と「ついてみたい」との距離 (女子) — それぞれ上位 4 種



第Ⅲ章 仕事についての見通し



1. 仕事に役立つ属性

これまでふれてきたように、生徒たちの間に、「つきたい」と「つける」とのギャップが認められた。

それでは、こうした仕事につくのに、どういう努力が必要なのか。「仕事をしていくのに役立つ」属性について、生徒たちは図20のように答えている。

<仕事に役立つ属性>

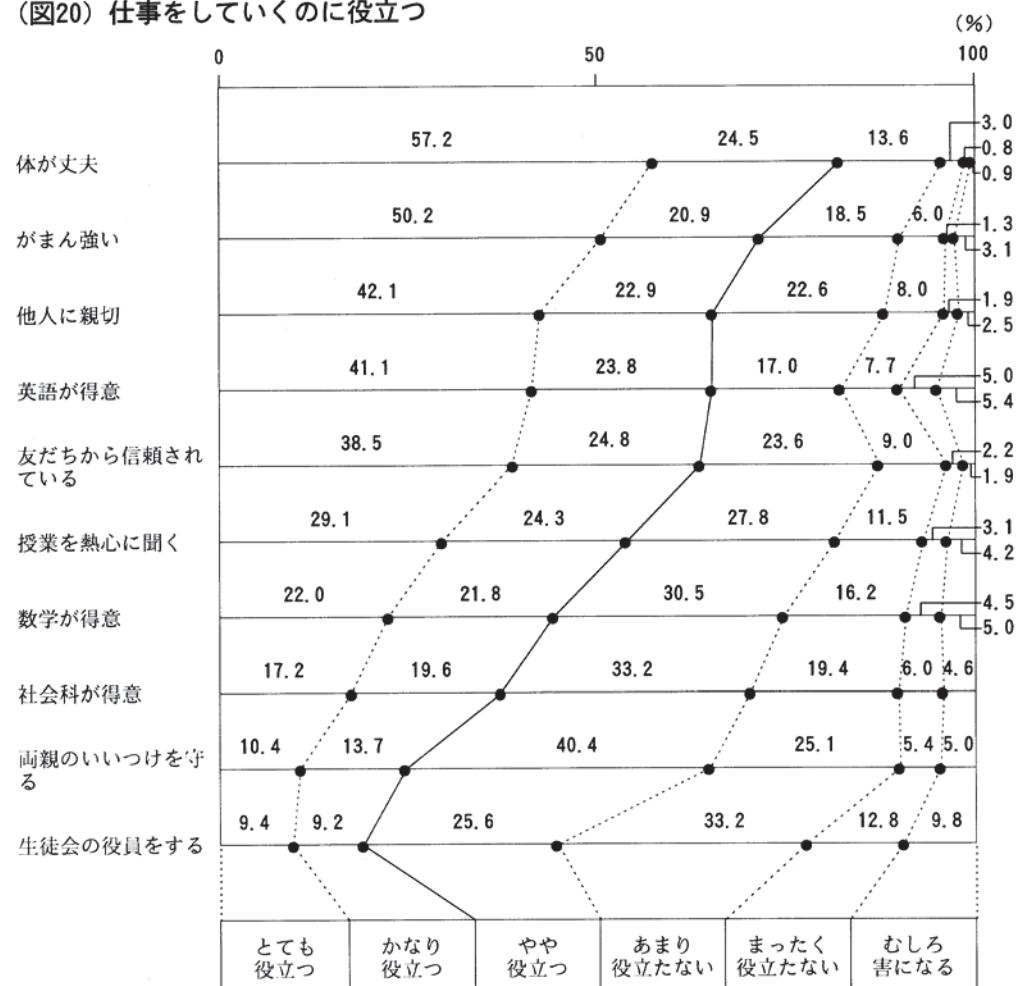
1. 体が丈夫 (81.7%)
2. がまん強い (71.1%)
3. 他人に親切 (65.0%)

(「とても」「かなり」役立つ割合)

確かに、体が丈夫でがまん強さがあれば、仕事をしていくのに役立つとは思う。なお、この「仕事をしていくのに役立つ」を学年別にクロスしてみると、表12のように、ほとんどの項目で学年が上がるにつれて、仕事に役立つと思う割合が増す。

また、学業成績別にみると、仕事をしていくのに「体が丈夫で、がまん強い」などを必要と思う割合は、成績が上位層のほうが多い(表13)。

(図20) 仕事をしていくのに役立つ



(表12) 仕事をしていくのに役立つ × 学年

	中 1	中 2	中 3	(%)
			中 3 中 1	
体が丈夫	54.1	51.7	60.1	111.1
がまん強い	42.3	45.3	54.6	129.1
他人に親切	43.2	42.6	41.6	96.3
英語が得意	33.2	42.7	42.9	129.2
友だちから信頼されている	32.4	33.3	42.4	130.9
授業を熱心に聞く	28.5	26.7	30.2	106.0
数学が得意	21.2	25.4	20.9	98.6
社会科が得意	13.2	17.4	18.3	138.6
両親のいいつけを守る	15.5	8.1	9.5	61.3
生徒会の役員をする	9.4	8.2	9.9	105.3

「とても役立つ」割合

(表13) 仕事をしていくのに役立つ × 学業成績

	上 位	中 位	下 位	(%)	
				下位 ↓	上位 ↑
体が丈夫	62.4	58.2	63.7	102.1	
がまん強い	57.9	52.9	44.5	76.9	
他人に親切	51.9	42.9	40.0	77.1	
英語が得意	51.5	44.3	31.1	60.4	
友だちから信頼されている	54.1	34.0	37.7	69.7	
授業を熱心に聞く	39.8	29.7	27.5	69.1	
数学が得意	30.3	23.3	14.8	48.8	
社会科が得意	27.3	17.5	15.7	57.5	
両親のいいつけを守る	19.7	9.8	8.9	45.2	
生徒会の役員をする	18.8	8.0	7.4	39.4	

「とても役立つ」割合

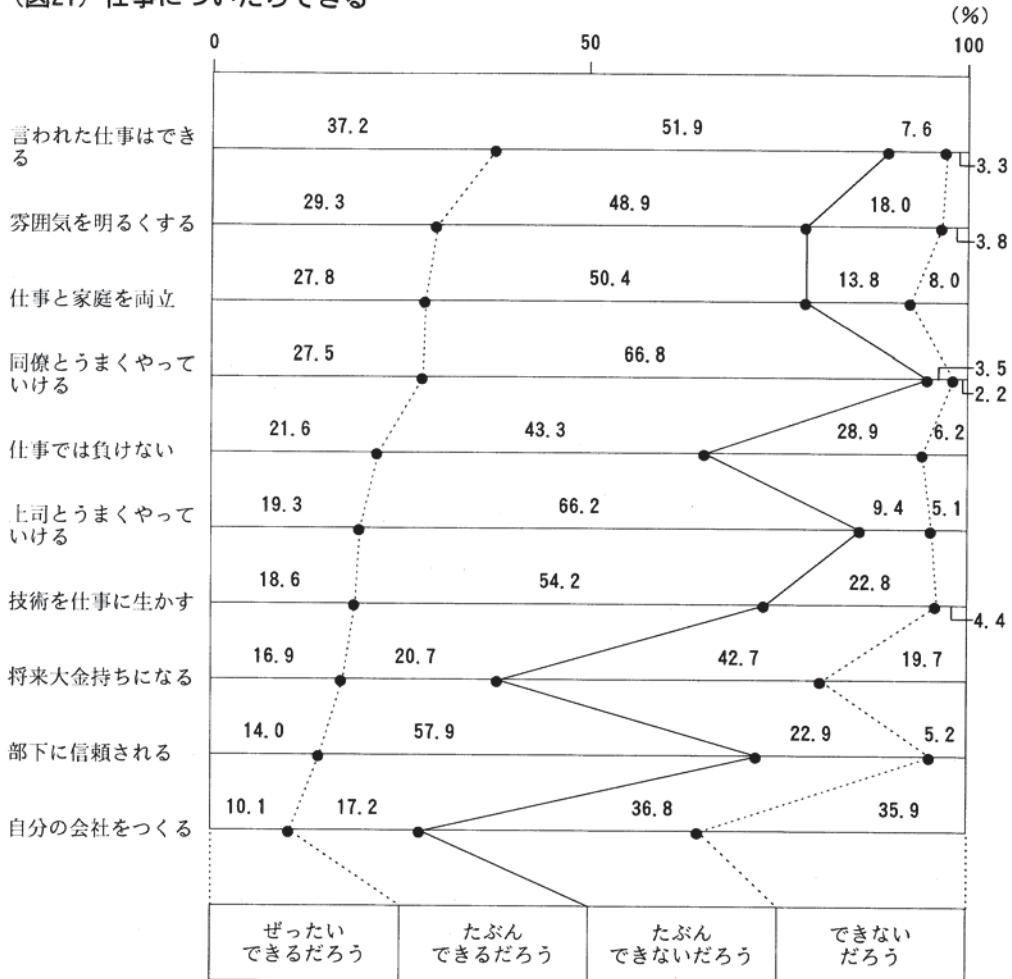
2. 仕事についたらできること

それでは実際に仕事についたら、どういうことができそうと思っているのか。図21のように「言われた仕事はできる」や「雰囲気を明るくする」「同僚とうまくやっていける」など、ほとんどの項目で、それはできると答

えている。

そして表14によれば、そうした自信は、中1から中3と、学年が上がるにつれて増加していく。また、男女別に注目してみると、自信のあることが男女によって異なるのがわか

(図21) 仕事についたらできる



る。

<女子のほうが自信がある>

1. 言われた仕事はできる

2. 霧囲気を明るくする

<男子のほうが自信がある>

1. 同僚とうまくやっている

2. 仕事では負けない

表15に、仕事についたらできると学業成績との関係を示した。右側の上位を100とした下位の割合が明らかなように、ほとんどすべての項目で、成績上位層のほうが下位層よりも自信を抱いている。

<上位層と下位層との差が少ない>

1. 霧囲気を明るくする (91.5%)

2. 上司とうまくやっている (70.6%)

<上位層のほうがより自信をもつ>

1. 大金持ちになる (27.4%)

2. 技術を仕事に生かす (34.2%)

(下位／上位の割合)

「霧囲気を明るくする」のような人間関係の力は学業成績による開きは少ない。しかし「技術を仕事に生かす」などについては、上位層のほうが自信をもっているのがわかる。

これまで、将来についての見通しの明るい

(表14) 仕事についたらできる × 属性

	性		学年			(%)
	男 子	女 子	中 1	中 2	中 3	
言われた仕事はできる	35.4	39.1	35.8	34.1	38.8	
霧囲気を明るくする	28.8	29.8	28.9	27.0	30.1	
仕事と家庭を両立	22.0	24.9	24.5	21.5	26.3	
同僚とうまくやっている	32.3	22.5	26.1	26.1	28.2	
仕事では負けない	23.5	19.6	20.6	16.9	23.6	
上司とうまくやっている	23.3	15.2	19.0	17.2	19.9	
技術を仕事に生かす	20.2	17.0	15.8	15.4	20.6	
将来大金持ちになる	21.3	12.3	17.5	14.3	17.4	
部下に信頼される	17.8	10.1	13.9	11.9	14.7	
自分の会社をつくる	15.2	4.9	6.6	11.2	10.7	

「ぜったいできるだろう」割合
□は最大値

面を紹介してきた。それでは「仕事がうまくいきそうにない」や「むずかしい仕事は向かない」など、自信のなさをもっているかどうかを調べてみた。結果は図22の通りで、全体としてみると、将来の仕事についての不安はそれほど多くないような印象を受ける。そうした中で、「むずかしい仕事は向かない」と思う割合の多い生徒が「何回かある」を含めると55.5%と、5割を超える。

そして表16によると、ほとんどの項目で、学業成績の上位層よりも下位層のほうが、仕事についての不安をもっている者が多い。

また、学年や性別のクロス集計結果を表17に示した。学年別にみると、以下のような傾向を読み取ることができる。

<中1のほうがそう思う>

1. 体力に自信がない
2. 責任のある仕事につきたくない

<中2のほうがそう思う>

1. 仕事がうまくいきそうにない
2. むずかしい仕事は向かない

<中3のほうがそう思う>

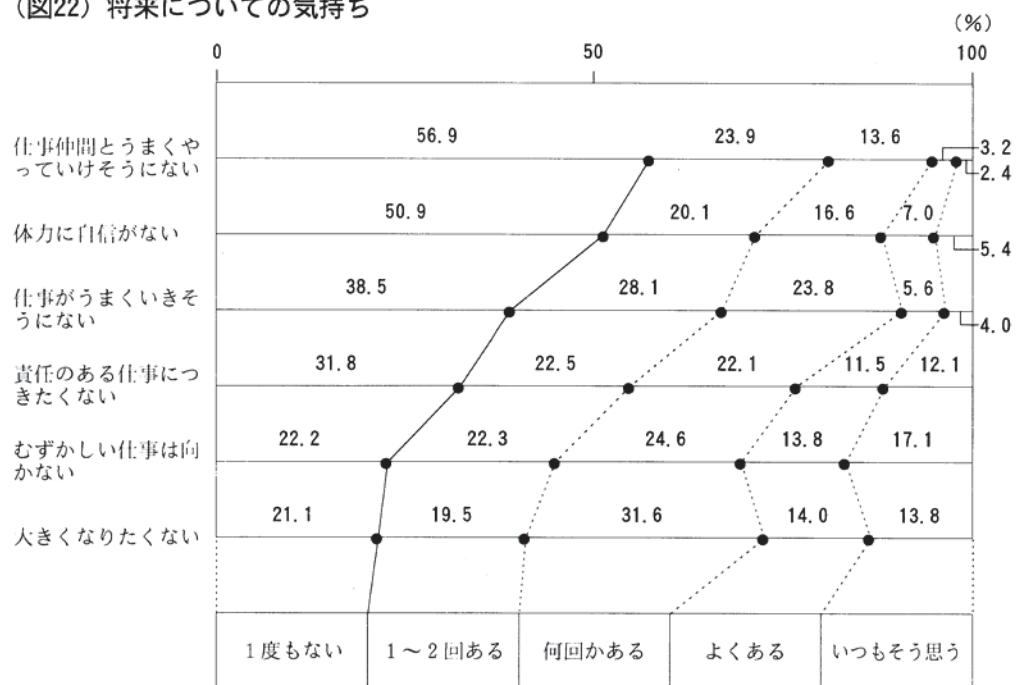
1. 大きくなりたくない

(表15) 仕事についたらできる × 学業成績

	上 位	中 位	下 位	(%)
				下位 ／ 上位
言われた仕事はできる	48.9	40.2	33.2	67.9
雰囲気を明るくする	37.6	25.5	34.4	91.5
仕事と家庭を両立	39.6	25.6	20.7	52.3
同僚とうまくやっていく	39.8	24.9	27.5	69.1
仕事では負けない	37.6	22.3	15.6	41.5
上司とうまくやっていく	29.3	16.9	20.7	70.6
技術を仕事に生かす	38.3	16.4	13.1	34.2
将来大金持ちになる	39.8	13.5	10.9	27.4
部下に信頼される	31.6	11.1	13.3	42.1
自分の会社をつくる	26.3	7.4	11.0	41.8

「ぜったいできるだろう」割合

(図22) 将来についての気持ち



(表16) 将来についての気持ち × 学業成績

	上位	中位	下位	下位 上位
仕事仲間とうまくやつていけそうにない	5.3	4.5	9.9	186.8
体力に自信がない	10.8	14.6	14.8	137.0
仕事がうまくいきそうにない	9.1	6.6	18.8	206.6
責任のある仕事につきたくない	27.0	23.3	32.8	121.5
むずかしい仕事は向かない	22.6	31.2	39.8	176.1
大きくなりたくない	38.4	24.6	28.4	74.0

「いつもそう思う」 + 「よくある」割合

(表17) 将来についての気持ち × 属性

	性		学年			(%)
	男 子	女 子	中 1	中 2	中 3	
仕事仲間とうまくやっていけそうにない	(6.1)	5.0	6.1	(6.5)	5.1	
体力に自信がない	11.1	(13.6)	(13.3)	13.1	11.9	
仕事がうまくいきそうにない	(10.8)	8.4	8.5	(12.6)	8.8	
責任のある仕事につきたくない	(24.8)	22.5	(26.6)	21.6	23.7	
むずかしい仕事は向かない	28.8	(33.3)	30.0	(32.0)	30.8	
大きくなりたくない	(28.8)	26.8	25.4	26.6	(28.9)	

「いつもそう思う」 + 「よくある」割合
 () は最大値

3. 自分のタイプ

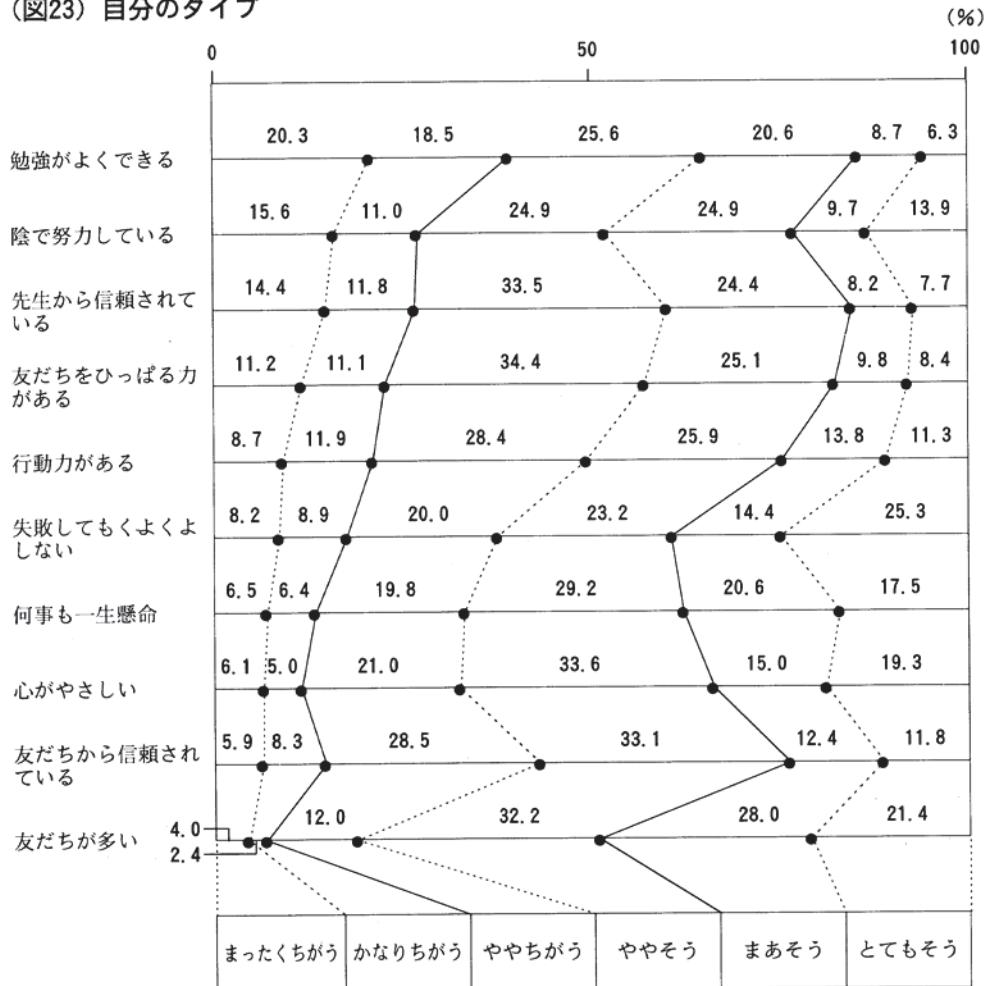
こうした考察から明らかなように、職業観の形成に自己評価が密接にからんでいるようみえるが、それを図23にまとめてみた。

「陰で努力している」や「友だちをひっぱる力がある」などについて、「とても」そう

だとはいえないが、かといって、「まったく」ちがうとは思わない。つまり「まあそろかな」という反応が多い。

自分に自信があるとはいえないが、自信がないとも思わない。ほどほどの自信というの

(図23) 自分のタイプ



が、自己像についての平均的な感じであろう。

そして表18によると、学年が上がるにつれて、自分に自信をもつ割合が増す。成長すると、「何事も一生懸命にやれる」や「友だちから信頼される」などについて、自分を肯定的に思えるのである。

また、学業成績との関連では、表19のように、成績上位層は下位層よりも、ほとんどすべての項目に自己像が明るい。成績が上位に

なるにつれて、自分に自信をもてるようになるのである。

学校でしていることについて、「遅刻しない」や「先生の言うことにしたがう」などを図24にまとめてみた。考えてみると、学校でしていることの中に、将来の仕事をしていくのに役立つ態度が少なくない。そして多くの生徒も、学校を通して、そうした態度を身につけているように見える。

(表18) 自分のタイプ × 学年

	(%)					
	中 1		中 2		中 3	
	とても	まあ	とても	まあ	とても	まあ
勉強がよくできる	6.6 15.1	8.5	3.1 11.6	8.5	7.3 16.2	8.9
陰で努力している	13.7 25.5	11.8	13.2 22.5	9.3	14.1 23.2	9.1
先生から信頼されている	5.2 14.7	9.5	5.0 12.0	7.0	9.3 17.6	8.3
友だちをひっぱる力がある	7.2 21.1	13.9	8.2 18.7	10.5	8.7 16.8	8.1
行動力がある	9.0 21.7	12.7	12.8 27.1	14.3	11.4 25.2	13.8
失敗してもよくよしない	20.5 34.3	13.8	21.9 35.0	13.1	28.0 43.2	15.2
何事も一生懸命	12.3 30.7	18.4	16.2 37.4	21.2	19.6 40.7	21.1
心がやさしい	15.2 31.4	16.2	17.0 29.0	12.0	21.3 37.1	15.8
友だちから信頼されている	12.9 23.4	10.5	9.3 22.5	13.2	12.4 25.2	12.8
友だちが多い	23.2 51.6	28.4	19.0 46.1	27.1	21.6 49.9	28.3

○は最大値

表20に、学校でしていることの属性別の分析結果を示した。差に注目してみると、

性 男子—わからないところを質問する
女子—宿題を忘れない
学年 中1—校則を守る
中2—遅刻をしない
中3—係や委員に立候補する

女子より男子、そして中1より中3のほう

が、受け身から自発的に学校生活にかかわっている印象を受ける。

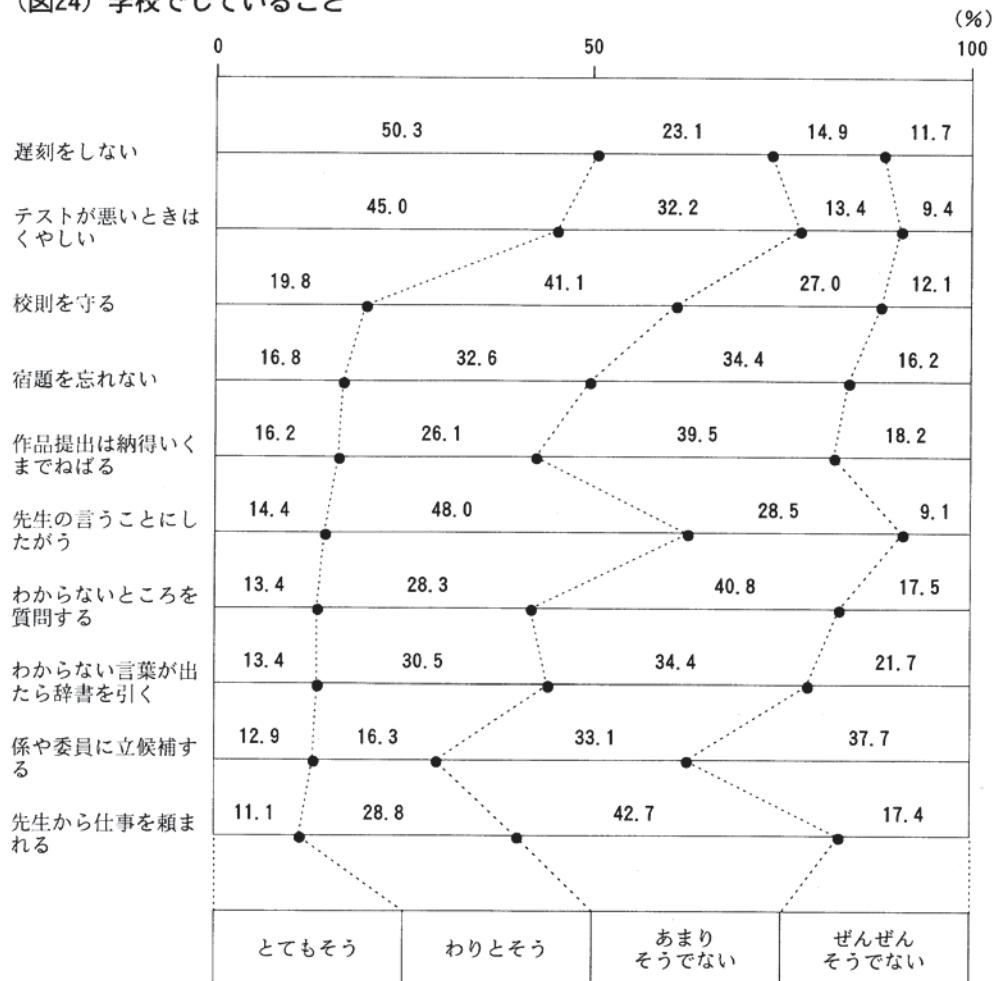
そして表21によると、成績上位層のほうがあらゆる面で、学校に適応しているのがわかる。勉強の得意な生徒たちは、苦手な生徒よりも、学校の中でのびのびと生活しているのだろう。

(表19) 自分のタイプ × 学業成績

	上 位		中 位		下 位		(%)
	と て も	ま あ	と て も	ま あ	と て も	ま あ	
勉強がよくできる	29.8 68.4	38.6	6.8 8.9	2.1	1.1 1.1	0.0	
陰で努力している	10.6 45.4	34.8	11.1 22.2	11.1	7.4 20.0	12.6	
先生から信頼されている	17.6 45.8	28.2	8.0 13.6	5.6	2.6 4.7	2.1	
友だちをひっぱる力がある	13.8 42.3	28.5	11.1 17.7	6.6	5.3 10.6	5.3	
行動力がある	16.7 48.5	31.8	13.9 22.2	8.3	9.8 18.2	8.4	
失敗してもよくよしない	20.5 53.1	32.6	14.1 37.8	23.7	9.9 37.1	27.2	
何事も一生懸命	18.2 59.1	40.9	21.2 39.2	18.0	10.5 22.0	11.5	
心がやさしい	15.9 59.8	43.9	16.4 31.0	14.6	9.9 25.1	15.2	
友だちから信頼されている	23.1 55.4	32.3	11.6 22.2	10.6	6.3 15.6	9.3	
友だちが多い	24.2 63.8	39.6	30.2 49.8	19.6	25.9 43.4	17.5	

○は最大値

(図24) 学校でしていること



(表20) 学校でしていること × 属性

(%)

	性		学年		
	男子	女子	中1	中2	中3
遅刻をしない	(50.3)	50.2	58.3	(60.6)	44.1
テストが悪いときはくやしい	(46.1)	43.7	46.2	(52.3)	41.8
校則を守る	(22.5)	17.0	(22.7)	17.6	19.7
宿題を忘れない	16.3	(17.3)	(23.1)	16.9	14.9
作品提出は納得いくまでねばる	14.8	(17.7)	(17.0)	13.8	16.9
先生の言うことにしたがう	(15.7)	13.0	(15.2)	15.1	13.9
わからないところを質問する	(16.7)	10.0	12.3	11.9	(14.3)
わからない言葉が出たら辞書を引く	12.8	(14.0)	8.1	11.5	(15.8)
係や委員に立候補する	(12.9)	12.8	10.9	12.6	(13.6)
先生から仕事を頼まれる	(12.6)	9.5	11.3	6.1	(12.7)

「とてもそう」の割合
□は最大値

(表21) 学校でしていること × 学業成績

(%)

	上 位	中 位	下 位
遅刻をしない	62.4	51.1	44.7
テストが悪いときはくやしい	64.7	45.5	35.8
校則を守る	36.1	20.2	11.6
宿題を忘れない	42.1	16.7	6.9
作品提出は納得いくまでねばる	27.8	13.0	12.6
先生の言うことにしたがう	30.1	12.5	4.7
わからないところを質問する	24.8	10.6	6.8
わからない言葉が出たら辞書を引く	38.3	11.9	9.9
係や委員に立候補する	24.8	12.7	10.8
先生から仕事を頼まれる	14.9	9.2	6.5

「とてもそう」の割合
○は最大値